

アンケート市民活動（2020年6月） 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う活動への影響について

横須賀市立市民活動サポートセンター

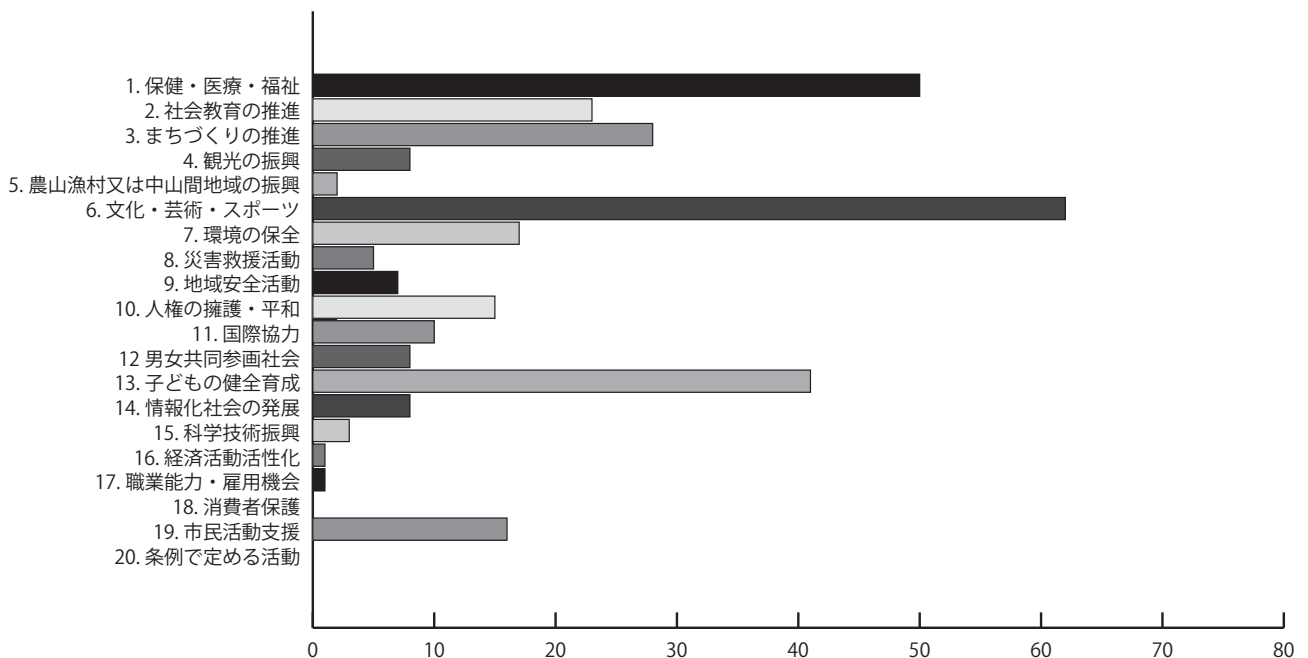
アンケートのお願い郵送数：696件

回答期間：2020年5月29日～6月20日

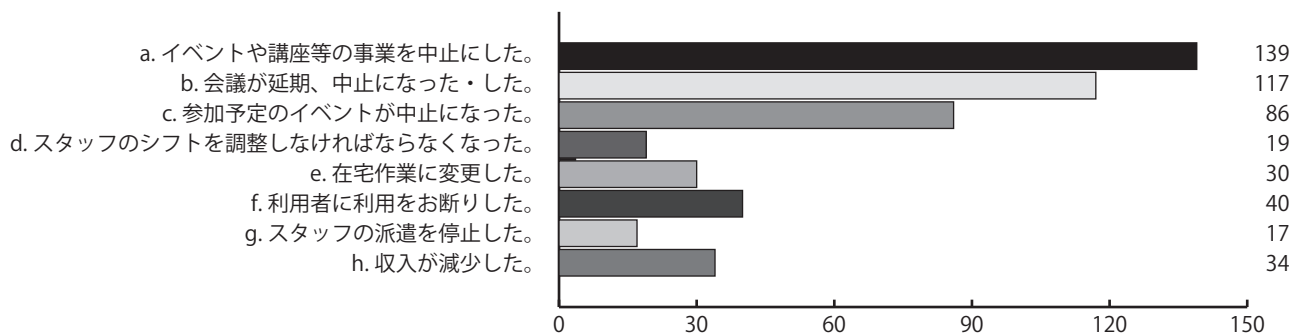
ご回答件数：160通（内訳：インターネットから75件、郵送やFAXなど85件）

回答のあった団体情報

団体の活動分野（3つまで選択）



1. 活動にどんな影響がありましたか？（複数回答可）



- その他
- ・ 他の方で行った
 - ・ 自分たちの集まりが滞った
 - ・ 小学校を対象ですので全て中止でした
 - ・ 高齢者施設等でのボランティア活動を自粛した。
 - ・ 入所者への面会制限等。
 - ・ イベント行事などが次々と中止となり利用者さんの工賃にも影響した。
 - ・ 新年度の計画、人事の計画がしっかり組み立てられない
 - ・ 登録利用者からの利用に関する問い合わせが激減した
 - ・ 会議・集会・訓練・スカウト募集のための体験活動等ができなくなった。
 - ・ 特になかった
 - ・ 活動がお休み中なので、特に影響はありません。

2. その影響に対してどのような対応を行っていますか？

- ◆助成金を受けている事業もあり、助成企業への理由説明を行った。イベント関係に関しては夏以降へスケジュールの変更を行った。
- ◆なんもしてない
- ◆私たちの活動には、会場をお借りして開催されるミーティング形式の経験と力と希望の分かち合いが必要なんだなあと再認識することができました。対策。オンラインミーティングや屋外でミーティングを開催して、今まさに苦しむ仲間を受け入れました。
- ◆全開催日の休止
- ◆自主トレ
- ◆個別に連絡をした。
- ◆茶会等の催しを中止して、関係方面へ書面で周知すると共に、ただただ新型コロナウイルス感染が終息をすることを願って、自粛している。
- ◆収入である寄付が減ったのでボランティアさんへお礼ができなくなりましたが、バザーを開始しました
- ◆中止は事前に告知しました。7月再開を目指しています。
- ◆横須賀市からの指示なのだから、とにかく従い、感染防止につなげる
- ◆3月はすべての活動を中止し、4月からオンライン（Zoom）を利用して練習会を行なっています。
- ◆延期などにはせず中止としました。
- ◆会員からの要望に個別に応えた。（例えばそば粉の販売等）
- ◆オンラインでイベント中止のお知らせを周知しました。
- ◆1年間の活動中止とした
- ◆会議（総会）は提案文書を郵送し、返信していただく形にした。イベントは中止のまま
- ◆書面会議、リモートヒアリングを行った。
- ◆利用者の関わる事業の休止、スタッフの交代勤務
- ◆利用者に対して、時間短縮のお詫びと案内、ボランティアによる活動は停止、職員による対応
- ◆会員にはメール等で情報提供、後援承認申請の取消
- ◆団体としての活動を今年の8月まで停止中
- ◆オンライン会議やリモートでの音楽制作
- ◆全ての作業を在宅へ変更
- ◆オンラインでの開催に切り替えた
- ◆すべて延期にしています
- ◆会員との連絡は携帯とメール連絡で行っている。
- ◆コロナの終息を待つ。
- ◆web会議、オンラインでの集会などを行っている。イベントは延期して、コロナ対応バージョンで行えるよう計画の練り直し。
- ◆ただ静かに状況を見守っていました。
- ◆幹事会はオンラインミーティングで実施。総会もWEB開催しました。
- ◆会議の分は書面会議とした。大会等はすべて中止練習も中止
- ◆打ち合わせはオンラインで。
- ◆SNS、メール、電話などで連絡を取り合っている
- ◆総会は書面で実施、活動は休止（一部、郵送でやり取りしながら対応した）。
- ◆会員に対してSNS利用で状況連絡した

- ◆オフラインイベントを来年以降に延期。あわせてオンラインイベントの開催を計画中
- ◆1. 参加予定の演奏会が延期となり、チケット購入者に返金した。2. 団の通常練習が出来なくなり、オンライン練習を模索中3. 練習不足及びチラシ作成など演奏会準備の遅れから、11月に予定した演奏会を延期した。
- ◆イベント、練習中止のメンバーへの周知と今後の予定の早期発信
- ◆使用している会場の公共施設の使用条件が全て無くなる迄対応はできない。
- ◆会員は各自、自宅で作品製作を行っている。
- ◆予定したイベント等の中止連絡を行った。
- ◆①マスク共同購入支援。②次亜塩素酸水の生成器を購入、生成、高齢者障がい者へ配布（自宅）、一般配布。③イベント等は時期をみて再開予定（現在は6月まで中止）
- ◆・リモート会議 ・FAX連絡
- ◆活動を中止した。
- ◆来季に向けて準備をしている状況です。
- ◆メール上でのやり取り
- ◆自宅待機、電話連絡
- ◆メールやLINEによる会議、総会の書面表決
- ◆ラインで済ませた
- ◆オンライン講座にチャレンジする人がいた
- ◆電話・メールの活用、活動時間の短縮、事務所の閉所等
- ◆携帯電話、パソコンによるメールにて情報交換を行った
- ◆開催時期を延期した。
- ◆会員へお知らせを配布したり、電話をしてお断りをした。
- ◆講座の中止について、HP等で周知した。
- ◆会議をLINEで行った。会報など発行物をサポセンに依頼した。総会は資料配付のみとした。田植えのイベントも参加者を絞った。
- ◆ボランティア活動中止
- ◆セミナー・講座は、日程をずらしたり、会議は、少人数でおこなった。
- ◆在宅から関係先に、PC、FAX、スマホ、郵便での情報交換に変更した
- ◆通信による句会を行っている。
- ◆活動が必要な場合は、会長、理事の少人数で対応をして、会員への連絡は携帯、LINEを使用した。
- ◆全て中止とした
- ◆活動を停止している。
- ◆総会の議案審議は、書面表決で実施した
- ◆開所時間の時間の短縮。
- ◆2020年度上期のパソコン無料相談会チラシの配布をやめた
- ◆定期総会を書面承認で行った
- ◆利用者に連絡、2月末より6月末まで休講とした。
- ◆活動再開に向けて計画や実施方法の練り直し。（研修会実施における安全確保）
- ◆特別な対応は特になし。在宅でのパソコン学習の支援が多少できた。
- ◆声出し、発声は自由に自宅で練習。体を軽く動かしながら体操らしき運動の持続
- ◆自宅待機
- ◆特に対応はしていない。7月からコミセンを利用して活動を再開する予定
- ◆メール、電話で連絡した。
- ◆会議資料を郵送に変更。個別に電話連絡を行った。
- ◆当協会は市の委託の事業がほとんどなので市の指示に従って対応しております。
- ◆時差通所 AM 通所 PM 通所。作業時の三密に分散。終了後の作業場所での除菌。利用者さん一人一人の症状の様子

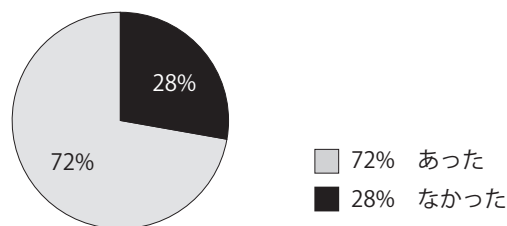
の見守り。クラスター発生に気を気配る。販売方法の試行錯誤

- ◆入所フロア内のできるレクリエーションの提供。テレビ電話を利用したWEB面会。文書配布による会議の省略可。等々
- ◆つぎの予定を計画した。
- ◆①訪問先や会員への「ほうれんそう」&ヒアリング②総会を形式変更し、書面開催③横須賀市役所 関係各課へヒアリング・相談（市民生活課・企画調整課・危機管理課）④諸連絡を、メール対応⑤今後の活動は、再開環境が整うまで一時停止を連絡
- ◆活動を休止
- ◆来場予想者へ中止の連絡をした。会場（ホテル）のキャンセルをした。報告書の承認を郵送で行った。
- ◆三笠保存会からの依頼ガイドがありコロナ緊急事態宣言発令に伴いゲストと会員の安全を図る等保存会と協議、艦内定時ツアーを中止している。
- ◆連絡待ち。開催が決定しないうちは参加できません。
- ◆三密を防ぐ工夫。マスク手洗い検温の実施。消毒公共交通機関を利用せず徒歩または家族の送迎のお願い。在宅ワーク。時差通所など。
- ◆活動開始時期を延期しました。
- ◆当面は最低限の活動にとどめています。
- ◆時々電話をかけていた
- ◆自粛要請により参加者の移動リスクがあるため3月から7月まで3段階で中止とした。8月より対策を講じてテストウォークを開催予定
- ◆・完全1対1対応を維持し、双方向のオンライン授業を実施。（5月、6月）・通常授業再開に向けて感染対策を準備（7月以降）（手指の消毒、体調チェックシート、ビニールの仕切り、換気、フェイスルト
- ◆電話、メール、葉書などで対応した。
- ◆電話連絡をした。
- ◆電話で連絡をとった
- ◆電話等で連絡を取った
- ◆会議は書面にして行い、総会は延期して行う予定。経費節減
- ◆機関紙でイベントの延期、中止等を連絡する。また会費徴収（毎月）の際にサークル代表に話す。併せて電話連絡をする。会費受付の際にウイルス除菌フレッシュやポールを立ててビニールシートで飛沫防止したり、マスク着用のお願いなど。
- ◆会員に中止や延期の連絡をした
- ◆居場所事業や活動は4月～6月1週目は基本的にクローズしたが、要望があった団体に貸室を行った。またzoomを活用して『ほっこりタイム』やLINE電話を使った『キッズソング』を行って活動を継続する工夫をした。参加者はわずかであったが出会う意義を感じることができた。
- ◆連絡網を使つての徹底
- ◆中止の連絡はがきをPCで印刷し会員全員に送付6月の予定について森の出入り自粛が終わり次第、活動を考える旨通信にて告知
- ◆完全自粛です
- ◆ラインなどによるリモート会議
- ◆HPで当面の活動中止などをしらせた。必要な連絡はネットで対応した活動の再開に向けて事業ごとに会議を何回か開いた
- ◆年度末 年度始めにあたり 決算、予算、年間行事を決めなければならず サポートセンターが利用できない為 汐入がストで実施した。
- ◆書面による総会の実施
- ◆日中総会は議案書を会員に送付し葉書で意思確認をするような書類総会とした。近隣は10月1日～4日の展示会は取り組みができないとの判断で今年度は中止にした。

- ◆オンラインでのイベント開催を行った。
- ◆当面の活動の自粛を電話、手紙頭を通して行った。(会費、介護施設、個人宅、行政などに対して)
- ◆活動会員の意思により活動するか自粛するか選択してもらった(活動OKの者に入ってもらいたい穴はあけていない)
- ◆メールでの連絡(注意、声かけ、情報共有)
- ◆・事業推進に遅れが出て今後の予定変更見直しが必要である。・支援を断ってきた中小企業があり、事業収入が落ち込んでいるので運営費の見直しと事業縮小して予算削減で対応せざるを得ない
- ◆携帯電話、パソコン等のメールによる情報交換
- ◆大会の中止延期をスポーツ庁、日卓協、県卓協会、横須賀市等ガイドライン休止状況を早期にチーム選手に連絡しました。(収束状況を見て)
- ◆ブロック責任者を通し緊急連絡体制を充実させた。
- ◆ラインで連絡を絶やさないようにした。日常生活のこと、会員に日本語のQ&Aなど学習意欲、モチベーションを絶やさないように努めた。
- ◆事業が縮小になった。
- ◆サークル活動を休止。定期総会を延期(秋に予定)。講演会を延期(開催は未定)
- ◆不急ボラ活動、不急ではないが全ての活動を中止、延期した。
- ◆役員だけ(6名)が個人宅(会長宅)にて2回ほど打ち合わせを持った
- ◆在宅訪問活動なので5.6月は利用者様確認し電話活動(様子うかがう程度)、電話希望でない方はハガキにした。
- ◆他場所にて三役会議、資料配布で対応。書展中止。
- ◆新型コロナウイルス感染拡大防止に関するあらゆる情報と市の指示により会議や揮毫交換会の企画の中止を決断しました。
- ◆命、健康が第1なので感染しないさせない心掛け。
- ◆手紙電話で連絡を取った
- ◆全会員にメール、郵便で通知再開の見通しは未定役員間でメールによる情報交換
- ◆市管理施設の為コロナ感染防止拡大のため利用中止の文章を作り参加して下さっている人たちに開催できるようにになったらお知らせすることを付け加えてそれぞれのお宅に配りました。
- ◆参加者の命を最優先に講座を当分の間中止とした。
- ◆利用する会場がヴェルクで休館のため全会員に連絡網にて周知した。
- ◆会員が集まって話し合うことが中心なので休館期間の対応はできなかった。電話で連絡することくらいしか手立てがとれなかった。
- ◆10年以上前から、共に学習してきた会員も多く、疎遠防止が第一ととらえ、ホームページとメールを利用した活動をしています。
- ◆手作りマスクの寄付、販売
- ◆1. 総会は会員総員に総会資料を郵送配布し本年度その他の懸案についていけんを求めて(承認を含め)集約作業中。2. コロナ騒動が収まるまで、従来から検討中の衣笠地区活性化の一丁目一番地、衣笠山公園再生拡大について、そのソフトプラン作成に力を入れる予定。
- ◆会議については総会は書面議決にて行い、その他の会議は文書やメールにて情報共有を行った。利用をお断りした利用者には感染リスク回避の為とご理解いただいた。
- ◆参加予定者に手紙を送って協力をもらった。
- ◆イベントや講座は未定であるが先延ばしにしていつか開催予定。同じく利用者には先へ送りで落ち着いたところでたくさん利用していただくようお願いした。収入減は打つ手がない。
- ◆会員の方には郵便でその他の方にはHPでお知らせしました。
- ◆理事会等が開けなく電話やメール等で対応しています。
- ◆3~6月間の休部連絡(60名へメール配信)5月の定例親善大会の中止(市内各クラブ対称)4月の定例クラブ内大会の中止

- ◆我々の活動は屋外で12～13名の会員による花だんの除草、整備作業が中心でコロナに影響されることなく、継続しています。
- ◆7月以降に開催予定。総会について書面表決を導入
- ◆自粛するしかなかった。
- ◆イベントが中止のものについては参加が不可となり延期を検討しているものについては、今後の状況の様子をみながら開催を摸索中。
- ◆会員派遣中止、その他会員同士の連絡は電話で行った。
- ◆海岸清掃については、今年度は中止とし、次年度への対応とした。

3. 今回の対応で困ったことがありましたか？



3-2. 「3」で「はい」と答えた方、どのようなことが困りましたか？

- ◆活動展示を行う場所が無く、夏のサポセンは一杯なので、産業交流プラザを予定するが、高い！
- ◆あー ないですよ
- ◆再飲酒してしまう仲間が増えていると聞き伝えて情報が入りました。ミーティング開催する会場の閉鎖は少々困りました。
- ◆おしゃべりができなくなり会えなくてさみしいと皆に言われ困った
- ◆体力低下 チーム力低下
- ◆子どもの自然遊びを進める活動をしているので、自粛中でもできる楽しみ方を SNS 等で配信しようかと検討したが、どう配信（表現部分で）したら誤解を生じないか判断が難しかった。
- ◆中止した会に来てしまった参加者がいた。
- ◆①茶会の中止を一般市民の方々へ周知する方法が限られていること。②役員で今後のことを相談したくとも、公共施設が使えず、少人数でも集まれなかった。
- ◆会議をしたくても会場がない
- ◆予定していたイベントの中止対応
- ◆フラ（ダンス）のグループなので、オンラインを利用しているとはいえ、やはり実際に集まって練習できないのは困ります。活動の自粛や、生活サイクルの変化、今後に対する不安などから、辞めてしまわれた方もいて、メンバーが減ってしまいました。一日も早く事態が収束し、また並んで練習できる日が来ることを願っています。
- ◆1、そば教室を全て中止した。2、役員で打ち合わせたくとも場所がなかった。
- ◆英会話×収穫体験イベントを企画していた旨を各関係者に周知のほか、収穫イベントのために畑の整備や野菜のなり具合を調整していたことが無になったこと。また、市民活動ではなく、本業（農業）ですが、出荷先がクローズになってフードロスの不安が出たことです。
- ◆総会は会員の年一回の方針を決める場。それが満足にできなかったことは不満である。また活動を自粛したが、草は伸び放題。後の除草の負担が増えた。
- ◆サポートセンターのミーティングコーナーと印刷機が使えなくなったこと。
- ◆陽性者に接したことが判明した場合の対応
- ◆新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、ボランティアによる活動停止の措置を行う。それに伴い、電話の受付休止は行わず、時間短縮による職員対応に変更。その事により、職員内で感染者が出ないように、シフトに穴をあけ

ないように、なかなか休むことも許されない状況の為、様々な部分で職員の負担が増えた。

- ◆ジュニアヨットクラブの練習活動自粛
- ◆総会の開催方法
- ◆メールのない会員への情報提供（郵送）、チラシ（1000部）の廃棄
- ◆活動がすべて出来なかった
- ◆パソコンが苦手な方もいた
- ◆サポートセンターが休館になり、集合離散や切断機が使いなくなりました。
- ◆オンラインが使えない人も多く、周知が行き届かなかった
- ◆今期の定期総会を延期したこと
- ◆毎年行っている海の観察会を行ってよいかの判断。秋の東京湾イベントへの参加方法。
- ◆イベントの中止を知らせることが十分にできなかった。
- ◆みんながオンラインで対応できるとは限らない。
- ◆いつ正常な状況になるのか全く見当がつかない。仮に例会が開催できる状況になっても、「新しい生活様式」によって、これまでのような内容での開催はできないと認識しています。新しい形での採算は？ 参加者を限定する方法は？ など疑問がいくつもありますが、現在のところ全く見通しがつかないで苦しんでいます。
- ◆活動がワークショップ形式であるため、多くが中止・延期になり、活動が不活発になってしまっています。
- ◆大会のキャンセル。総会の中止ほか
- ◆文化会館のキャンセル料が発生するのか未定な点。今後の活動がどうなるか不透明な点
- ◆イベント参加者募集時期が決定できず、最終的に会場が休館となり中止となった
- ◆作業が停止してしまった。
- ◆会場等全ての場所が使用できなくなった
- ◆1. 3ヶ月以上練習中断により、団員のモチベーション・演奏レベルの維持、2. 練習中断中の指揮者・伴奏者への謝礼
- ◆活動中止も費用がかかるので会の運営がむつかしくなるとされる。
- ◆作品製作の進捗が進まない。アドバイスができない。11月に市民文化祭の展覧会に向けての準備・連絡に不都合がおきた。
- ◆新型コロナ感染症の緊急事態宣言は解除されましたが、2か月間の小学校の休校措置により、今後の夏休み等の期間も変更され、当初の日程では実施困難な状況となった。今後も二次、三次の緊急事態宣言が発令される可能性もあり、積極的な活動は難しいと思われる。
- ◆会員やクラブ活動メンバーの日常の交流が少しあり、安全、健康状態の確認がなくなった。
- ◆ミーティングの中止。
- ◆総会ができなかった。
- ◆必要な材料の購入が出来なくなった。一人一人に連絡と取るためハガキで通達したが作業が大変だった。
- ◆会員と直接会って話が聞けない
- ◆3密を回避した総会資料の印刷と発送作業
- ◆直接会えないと、やはりさみしいです。
- ◆いつも講座をしているまなびかんが使用できないため、身動きが取れない状態。会議も4月にZoomで開いたつきりで、コミュニケーションの場が減少している。
- ◆福祉・医療関係の局面では非接触とはいかない、またテレワーク対応準備ができない等
- ◆メンバーが一堂に会しての情報交換、マジック研究、マジック講習が出来なかった
- ◆1. 定期総会を開催できなかった 2. 年間計画が立てられない 3. 認知症カフェを開催出来ない
- ◆緊急事態宣言解除後もイベントの開始時期について判断できない。
- ◆総会で直に会員の声が聞けなかった。小学校総合的学習で田植えや自然観察を体験してもらえなかった。会員の親睦が図られない。
- ◆イベント開催を延期したため、盛り上がっていた気運を持続させる事が難しくなった。

- ◆対面不可で意思疎通が不十分になった
- ◆年度の切り替え時期と重なり引継ぎが上手く出来なかった。
- ◆年度当初の顔合わせ、1年間の活動計画や予算等を話合うことができなかった。
- ◆販売関係が中止になり、利用所の方の仕事がなくなった。
- ◆パソコン無料相談会、パソコン出前講習会の予定した会場が使えなくなった。
- ◆新役員が決まっていないサークルもあるため、手サ連の新役員が決められない
- ◆会議が出来なくなった。
- ◆普段は加盟クラブ間の情報交換や共有が出来たが会うことができない（スペースもない）ので困ることも。
- ◆仲間とのコミュニケーションの機会がきわめて少なくなったこと。
- ◆少しではあるがイベントの中止。全体練習の出来ないもどかしさ、11月頃予定のイベントに間に合うか不安でした
- ◆コミセンが利用できなくて練習が出来なかった
- ◆冊子作成が出来なかった
- ◆打合せ、会議場所の確保ができない。必要な情報連絡が出来ない。
- ◆新旧役員交代のために会議が出来なかった。
- ◆事業所で感染者を出さない環境を整える対応。イベント参加中止が多く収益の減少。工賃の支払い。
- ◆様々な場面で困ったことはありましたが、特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスなど、受け入れ中止となっては介護に困る方が大勢いらっしゃるため、感染予防に努めながら運営していくこと自体、当施設に限らず全ての施設が苦勞されていると思われまます。
- ◆延長したイベントを再度延期して、連絡や事務処理が大変。
- ◆延長したイベントを再度延期して、連絡や事務処理が大変。
- ◆・今後の予測が立たない。・活動再開時に向けた準備に必要な情報「感染拡大防止策のガイドライン」がない。
- ◆地域の方の居場所がなくなった。
- ◆郵送料が予定外の出費となった。
- ◆2月末からガイドができなくなり約5か月も活動もなく意欲の低下につながった。また、4月から新人ガイド2期生がデビュー予定であったが不可となり残念であった。
- ◆通所時、徒歩や送迎の難しさ。マスクや三密の難しさ。
- ◆今年度の活動開始を遅らせています。
- ◆開催中止により参加者から収入がなくなり運営費から例会の中止の連絡費用が発生した。
- ◆・授業をすべての講師に依頼できなかった。・状況が刻一刻と変化するので、繰り返し素早い検討や対応を迫られた。
- ◆突然の中止、再開に対し、会員への連絡。
- ◆突然の中止 又、再開に対して連絡が大変
- ◆当然の中止 又再開に対して会員への連絡
- ◆丁度会員に年会費を納めていただく時期だったが不定期の会員に継続をお願いすることが、コロナ禍の中先が見えず難しかった。スタッフを利用者の家に派遣してもお互いに大丈夫なのか心配だった。
- ◆練習も会合も出来なくて場所もなくて集まることも出来なくて困りました。
- ◆社会全体で外出を控えているので、居場所である「み～なの家」をこれまで通り利用していただくことができなくなってしまった。”出会うこと”が激減し、収入も計画通りにはいかない。オンラインでは居場所の活動・事業は大変厳しい。
- ◆緊急時に於ける連絡網が決められていなかった
- ◆予定していた交流会が開催できなかった
- ◆メンバーの年齢が70歳を超えるので高齢者としての活動には状況が全く不適であった。
- ◆定期総会の時期と重なり今までと異なる手続きに苦勞しました。
- ◆サポートセンターのかりに夕入ガストで予算、決算、年間行事などの話をした。場所がなくて（会合）苦勞した。
- ◆会員相互の連絡

- ◆ 10月に絵画交換展を文化会館でするはずでしたが、各国とも子ども達に絵を描いてもらう（取組みの時間）時間が確保できず今年は止む無く中止とした日中一総会の形態変更＝総会時会費納入だったが振込に変更
- ◆ 当該活動の利用者には、直接伝えることが出来ない。（施設の場合 感染対策上面会できない）
- ◆ 対外的にではなく内部でのこと。活動会員の活動がどうしてもかたより一部の会員に負担がかかった
- ◆ サークル活動（手話の学習・】交流）が出来ない
- ◆ 既に支援の辞退をしてきた企業があり、現状では今後の支援企業の方向が定まらない見通しがたたない状況で事業収入の減少が大きいと思われる。
- ◆ 定期的に開催していた勉強会、情報交換会が開催できなかったこと
- ◆ 総会（理事会）が開催できず収支決算資料、事業計画の内容、伝達に苦労した。（メール、電話）企画委員会、常任理事会、総会の会場がとれずに困った。
- ◆ 毎月の利用会場の中止。他年1回の催し（3月の体操祭）の中止。春季慰安旅行の中止。
- ◆ 定期的な学習が出来なくなって、ラインで頼ったが、細かい指導が受けられなかった。ラインに載せるだけでは、会員相互の意思の疎通が十分に通じないもどかしさがあった。
- ◆ 派遣のイベントが中止になり収入が減った。
- ◆ 定期総会を何度か延期した、そのたびに役員打合せ、会員（60名）連絡網（メール、FAX、電話等）で行い、時間がかかり困った。他の団体からのお知らせもあり、連絡に手間取った。
- ◆ 予定のイベントを中止するか延期するか迷った。当日の出演者等との連絡調整が真夜中までかかり大変。
- ◆ 全体での会議ができずまた、出前講座等ができなかった。親睦活動（会員全体）ができなかった
- ◆ マスク不足
- ◆ 総会を書面採決にしようといしても資料印刷ができない。集会場所が確保できない。
- ◆ 月のうち毎週続けている健康づくり運動によって楽しさにもつながるものでコミュニケーションや体力低下等影響が出ると思っていました
- ◆ 会員数が780名位おりますので全会員に中止する旨を連絡することは不可能なのでネットホームページの更新にて代替えた。
- ◆ 休館の期間が最初は4月いっぱい、次に5月まで最後は6月までと段階的に小出しにしてホームページを更新して行く事。
- ◆ 会合がひらけず、4月スタートをどうするのか？という話し合いがもてなかった。
- ◆ 組織として一番大切なコミュニケーションが行えずホームページとメールだけの活動には、限界を感じています。
- ◆ 本来のボランティア作業である桜並木、公園桜の手入れ、道路清掃（市クリーン作戦）が殆ど、実施できず組織としてやらず、個人としてやらざるを得ないムードである。人を集めるのが難しくなった。
- ◆ 会議の内容を文書やメールにて情報共有したが、どこまで理解して頂けたかわからず不安である。
- ◆ 知的障害者向けの団体なのでこの重大さや恐怖さが伝わらずなぜ活動を休むのかを伝えられず苦しんだ。
- ◆ 講演会の中止、総会の書面表決の手配など大変でした。
- ◆ 年間行事の演奏会等話し合う事が出来なくまとめなのに苦労した。総会は2月に終了し曲決めや曲順は決定したが気持ちが不安定で練習が身に入らない。今年や最後に高齢なので気持ちよく花を飾らせてあげたかった。
- ◆ 議案書の員策、発送費用。配布方法、書面表決の回収方法
- ◆ 中止によりポスター等の作成費用がかさんだ事。
- ◆ 会議が出来なかったので、連絡は全て電話の利用だった。

3-3. 「3」で「なかった」と答えた方、理由を教えてください。

- ◆「3」では「はい」と回答した。
- ◆なんもしてないから
- ◆LINEを使って活動状況を送りました
- ◆準備をする前の段階で中止を決定できたので。
- ◆スタッフの安全第一
- ◆収束したら再開すればよいため
- ◆収益事業ではないので、現状を受け入れその範囲で出来ることを考えた。
- ◆イベントの開催準備が整っていなかったため、ある意味今回イベントを延期する理由が出来良かった
- ◆連絡網がしっかりしているので
- ◆津久井浜のワールドカップ関連に来季に向けて準備をしていく状況です。小学校のプール授業（WSF）は今後の授業の状況にて活動を進めていく状況です。
- ◆イベントの後で、まとめは出来ていなかったが、再開されてから行うことにした。
- ◆主催者側が中止になったから。
- ◆非常事態だったので、活動自粛への利用者への対応がスムーズにできた
- ◆参加人数は減少しましたが、通信（メール・郵送等）で活動開催したため。
- ◆行事の予定については、早めに中止の連絡があったため
- ◆会員数が少なかった・市内の方だった・郵便で連絡した
- ◆連絡が徹底しており特に混乱はなかった。
- ◆関係者が全て介護施設者であり、コロナウイルスに関する対応が一致しているため
- ◆国、県、特に市の考え方、方針に基づき前半の活動を一切中止し後半は予定通り行う予定
- ◆今後の連絡網を作りたいと思った
- ◆総てボランティアであり子ども対象の為、主催者が決定するため私共の直接対応はありません
- ◆休みの間 骨やすみができた
- ◆具体的な活動は、これからです。
- ◆イベント会議、イベント中止。練習使用施設の休館の早い連絡。いくつか決まっていた施設慰問なども施設側から電話などもあり全員にもスムーズに活動中止の報告ができ問題は無かった。
- ◆オンラインで充分対応できた為
- ◆市かあの要請もあり3月～6月いっぱい休止した。
- ◆企画時点で施設使用不可を知りましたので対応できました。
- ◆夏のイベント中止は痛手ですが、チャリティーバザーの準備に追われることなく、暫し自由な時間を持つことができました。
- ◆ZOOMで代行できた
- ◆屋外作業で参加者も12～13名であり、3密状態発声せず。
- ◆コロナの影響がではじめた時期が昨年度末だったため、今年度の予定がまだ確定していなかったため、日程等をずらすことが可能だった。
- ◆今年度の対応を計画していたところだったので、スムーズに中止を決定出来たため。

4. どのような工夫をして、困難な状況を乗り越えましたか？ もしくは乗り越えようとしていますか？

- ◆団体として送迎サービスを実施しているが、子育て関連などさまざまなニーズの掘り起こしを行う予定。
- ◆再開してから考えることにしている
- ◆オンラインミーティングや屋外での青空ミーティング開催。
- ◆口頭ではきちんと伝わらないので、全関係者に書面でお知らせを出した。
- ◆自主トレ
- ◆結果として、配信をしない決断をしました。自然環境教育活動をしている団体が先駆的に配信している情報を集め配信しようかとも検討しましたが、SNSで配信することの責任も考え、その見極めが難しかったので見送ることにしました。
- ◆オンライン会議ツールを利用する。
- ◆①「まなびかんニュース」、横須賀エフエム放送、ジェイコム湘南、神奈川新聞社への茶会中止の連絡。②間違っ
て茶会会場へ来られた方の対応のため、会場での数時間待機。③会員指導者へ市内感染状況の提供と、自粛の要請。
- ◆ほとんどの方々が協力してくれました
- ◆活動を停止した
- ◆活動を中止することが、第一と考えた
- ◆全員ではありませんが、参加できる方には各自のデバイスにZoomアプリを入れていただき、オンラインでの練習会を開催しています。
- ◆広場を開けられない代わりに、お弁当の宅配をしました！
- ◆1、人数の制限。2、時間を区切って行う。
- ◆SNSで周知して沢山のかたのご協力を得たこと。
- ◆終息まで我慢する
- ◆集合しての作業はせずに、個人の小さな作業を繰り返して追いつこうとした。もちろん満足には進んでいない。
- ◆他の場所で同様に作業を行い、サポートセンターで印刷をお願いした。
- ◆感染拡大防止対策の徹底と各自の体調管理、お互いストレスをためず、話せる雰囲気と環境づくり、ちょっとした気遣い。
- ◆未だ検討中
- ◆メールによる運営会議、週刊メール情報（ない会員には資料郵送）
- ◆7月に会理事会において検討予定
- ◆それぞれ皆さんが少しずつ、勉強し改善してくれた
- ◆折り紙が切断出来ず、若干高い折り紙を購入。在宅ボラさん宅を定期訪問をして集配。
- ◆各種SNSの活用、配信の継続
- ◆WEBや紙ベースでステイホームの利用者に向け情報発信を試みた。
- ◆利用施設の再開を待っています
- ◆まだ状況を見ている段階。動画等を使用してのイベント参加の方法を模索中。
- ◆参加予定者からの電話で謝った。
- ◆簡単に乗り越えることは難しい。
- ◆静観 状況の推移を確認しながら、これからのイメージ作りをその都度行っています。
- ◆予定されていたイベントは秋以降への延期が多く、それまでは動画コンテンツの充実等に活動の重点をシフトして
いこうということになっています。内部研修もオンライン開催予定です。
- ◆書面会議とした
- ◆乗り越えられるか分かりません…

- ◆ 10月、12月に予定しているイベントに向けて今できる事を模索している
- ◆ 期限付きの活動ではないので、解除されるのを待つのみです。
- ◆ 書面等を使い意見の集約を図った
- ◆ オンラインイベントの開催
- ◆ 1. Zoom や You Tube を使ったのオンラインレッスン挑戦中 2. 4月末より毎週土曜日 Zoom ミーティングで懇親会実施 3. 会費の一部を集め、通常謝礼の一部とする。(専属契約による音楽家支援)
- ◆ 情報の共有化を徹底してゆく
- ◆ 現在の会の活動が中止状況が長く続くと乗り越えられないと思われる。
- ◆ メール・ファックス等又郵便物で連絡しあった。
- ◆ 横須賀市の感染症の対応を含めて、各団体の正確な情報を把握し、より適正な行動計画を定めて運営していくことが必要であると考え。
- ◆ 定期会報(月1度)を月2回に増やし情報提供や困りごとへの対応を実践している。
- ◆ FAX、手紙の利用。
- ◆ 書類で賛否を問った。
- ◆ 公共施設が使えないため、通信で連絡を取り合った。
- ◆ 海での活動は基本的に密の状況ではないので今後色々な問題が解決していけば少しずつ活動できると思います。
- ◆ メール上でのやり取りのみ
- ◆ ひたすら自宅待機、自己健康管理、必要なら電話連絡
- ◆ メールによる打ち合わせと資料作成の後、最少人数で総会資料を発送した
- ◆ ラインです。
- ◆ 4月のミーティングでは夏ボラ市があるのなら、いつもは会場限定のイベントをオンライン配信もやってみるといふ案は出た。
- ◆ 対応時間の短縮、文書配布を中心にする等
- ◆ 郵送手段を使い「必要書類」「教材」などをメンバーの手元に届け、各自が自習する方法
- ◆ レッスンができないので、各自自宅でストレッチなどを行った。
- ◆ 団地内で、会員さんに会ったら、話しかけたり、電話を、するなどしています。
- ◆ 会員内で相談して判断した。
- ◆ 参加を少なくする。お茶タイムも3密を避けた。
- ◆ スマホのライン・メールを使用し、連絡を取り合った。ユーチューブ配信を利用した。
- ◆ メール(スマホ・パソコン)による連絡に加え、郵送による実施に補うことが出来た。
- ◆ 三役、理事は、こまめに連絡をとり情報共有につとめ、会員には現状の報告をして不安を与えないようにしている
- ◆ 別に困ったことはなかった
- ◆ 郵送などの書面での対応、一部ネット上のボックス使ったテレワークで対応した。
- ◆ 全会員による一斉ラインにより、常に情報共有を図っている。
- ◆ 知人関係を頼り販売。
- ◆ 活動を中止した
- ◆ 7月の月例会で今までの経過と本年度の体制など話し合う
- ◆ 9月以降に段階的に研修をどう再開し、安全対策(人数分割、時間短縮、交流から講義形式へ)
- ◆ 様子を見るしかない
- ◆ ボランティア活動ですので世の中が落ち着くのを待つのみです。
- ◆ 健康を大切に自主練習あるのみでした
- ◆ 各人の健康が最優先
- ◆ 特に工夫はしていない。じっと我慢をしていた(練習を中止にした)各自が自宅で自主練習に委ねた。
- ◆ 休会中
- ◆ 打合せ会議方法を電話メールに変更。書類の郵送で対応している。

- ◆スタッフと電話連絡ですませた。
- ◆三密を避けリスクの工夫。利用時職員に消毒、マスク。除菌液の確保。掃除の後に共同で使う物品、ドアノブ、テーブルに消毒。通所時間を分散。
- ◆入所者や通ってこられるご利用者の体調観察(自宅にいらっしゃる時も含め) 不要不急な外部からの来訪者のシャットダウン職員の出勤前検温施設内の消毒・職員の手指消毒・マスク着用の徹底 等々
- ◆LINE や zoom での話し合いを活用
- ◆・メールで、会員間の意見交換等を行い、情報を共有・訪問先施設へ「音楽レクレーション・エクササイズ」無料配信等の情報提供
- ◆地域の方に情報が届くよう、町内会会長に回覧を依頼した。
- ◆新しい利用様式に早くなれること。会議の参加人数を減らすこと。(各会で1名にする等)
- ◆三笠保存会と協議しコロナ感染防止対策(検温、消毒、三密回避等)を実施した。段階的に実施していく。
- ◆ひたすら我慢です
- ◆使用する機材(クーラー、ヨット)の保守を浦賀在住の仲間に依頼しました。
- ◆会員への例会の会報が送られなく葉書で中止連絡をしています。
- ◆・保護者への早目のお知らせを確実にを行うよう努めた。・生徒一人ひとりの状況や保護者の考え方に寄り添って対応してきた。
- ◆互いに健康に留意してコミュニケーションを密にしていきたい。
- ◆利用者宅に伺う為、普段から感染に気を付け体調には注意した。コロナが落ち着いてから改めて自分たちの活動を見直し視点を変え活動できるようこれから話し合いたいと思っている
- ◆神奈川演劇鑑賞会(毎月1回幹事会)で劇団や全国鑑賞会と連絡を密にして対応した。
- ◆自宅で自主練をしたりするようにお願いをした。
- ◆5月にスタッフのミーティングや理事会は消毒や手洗い等の対策をして行い、再開に備えて準備をした。換気には一層気を付けてサーキュレーターも新たに購入した。特に子育て世代は出かけられず様々な負荷がかかっていることから、み~なの家へのニーズが感じられるので、それに応えられるように、これまでとは形態をかえて『なかよし食堂』『親子ひろば』を実施している。
- ◆手分け
- ◆活動場所への出入り自粛なので受け入れるしかない
- ◆電話や手紙でお互いの健康を確かめ合うことが主になりました。
- ◆見えない状況に活動中止自粛致し方ないと。ので、自粛のみでした。
- ◆ミーティング等が出来ないので毎日のように電話やメールで対応した。
- ◆汐入ガストで打ち合わせをし、他は監査等は郵送をし@を、もらうように変更した。
- ◆書面による総会で本年度の計画について確認した
- ◆オンライン(200m)と利用した。
- ◆やりくり工夫してます。家族への感染の不安がない会員が自分の「できること」で頑張ってくれました。
- ◆携帯電話のメールで連絡、情報交換(健聴の場合は電話も可)
- ◆当会の業収入は中小企業の支援が主であるので彼らの事業対応を見てからでないと予想が困難な状況にある。公益事業のセミナー講演会等については会場や開催方法について改善しない進められない。
- ◆郵送手段を活用して「必要書類」「教材」をメンバーに送付し、各自が自宅にて自習するという学習スタイルを導入
- ◆書面決議で乗り越えました。(4月総会理事会まで) 事業計画、大会の中止延期について大会申込み切日時等、1か月前であり収束状況も各方面からの情報をとってメールで各チームへ行った。今後も大変だがどうか今は乗り越えています。
- ◆役員連絡網を通し連絡を密にしている
- ◆ラインだけでは不十分だが、辛うじて会を維持した。学習のQ&Aの方法を検討したい。
- ◆お金の支出を考える。

- ◆ 2月下旬に役員会を行い、3月からサークル活動休止を決めた。活動参加数が30名以上となることも多く、高齢者も多数いるためコロナ状況を確認しながら、その都度相談して決めていきたい。
- ◆ 1.関係者との話し合い（TEL, メールで）2.会員同士の話し合い。全員一致は難しく、多数決で決めた。3.会場の予約ができた。
- ◆ 本来に必要な部分のみ、電話連絡しています。
- ◆ 利用者様にコロナウイルスで休止する旨伝達し活動者にも伝達紹介者にも休止連絡した。どこにいるのかわからないウイルスの恐さに自宅で様子を見ることに専念した。
- ◆ 工夫していません。シティーホームを堅持していました。
- ◆ なるべく人と対面しない
- ◆ 施設利用が可能になり次第、資料を用意、日程調整
- ◆ 5月中旬に市の健康長寿課より頂いた介護予防教室のパンフレットを参加の皆様到手渡しして今の生活状況等聞いて外出自粛の中で参考になればと思い配布しました。
- ◆ 再開の前提はワクチンや治療薬の開発が優先なのでまずここ一年は無理だろうと各役員を説得した。
- ◆ 我々の講座への全員、参加者は高齢者や持病の方が多く、役員で話し合いながら現状を乗り越えた。
- ◆ 意思疎通を図るため、ホームページとメールを利用して、方針事項の賛否や、学習資料の定期配信で絆を維持しています。
- ◆ 連絡網で各自定番のモチーフを編むよう連絡し、後に全員のを集めて作品にできるよう取り組んでいます。
- ◆ 6月末、7月中にはどうしても環境が悪化するので、コロナ感染防止対策をボランティア作業実施に組入れては作業を強行実施する予定である。（若し、陽性者が出た場合の責任は？）
- ◆ 情報共有のための文書を配信する際、数人（理事）で表現の仕方を確認し合い訂正を重ね分かりやすい表現になるよう努力した。次は密集を避ける為、広い場所で短時間で会議ができるよう調整している。
- ◆ すべての会合をZOOMで代行した
- ◆ 怖い病気であることを伝えるように努力した。バレエのDVDやCD系の音楽を渡したりして自分で楽しんでもらえるよう工夫した。
- ◆ 地活のスタッフにも手を貸してもらいました。
- ◆ 年2回の大きな行事、演奏が出来なくなりそれを目指している人に対して残念。コロナという先の見えないものに今年は仕方ないとあきらめつつ、でもまだなんとかかなると思ったり、考えたり、もう少し先が見えるようになったら希望者を募りコミュニティセンターでも借りてミニ講演会をと思ったりしています。
- ◆ 議案書は簡略化してコピーし配布
- ◆ 乗り越えることは出来なかった。一年に一度のイベントがすべて中止になった。
- ◆ これから今年度が始まるころだったので未だに今年度分については白紙の状態。
- ◆ 今のところ、会議を行えませんので、状況をかえられません。

5. 今後の対応について、会員、スタッフとはどのような方針を共有していますか？

- ◆スタッフどうしあまり集まれないので、問題を共有する「場」をつくるのが難しい。
- ◆ラインで喋ってる
- ◆臨機応変に対応する。ほかは特になし。
- ◆開催時間短縮、換気、手洗い、検温、マイスリッパ、マイタオルなどを事前にお知らせし、全関係者に開催についての詳細を書面でもお知らせして再開したい。ボランティアには事前に、電話でどのような配慮が必要かを聞きながら進めている。
- ◆3密しないでの数名での練習メールなどで呼び掛け
- ◆コロナ禍の第2波も懸念されているため、無理はせず当面イベント等は自粛する報告で検討しています。
- ◆臨機応変に対応していく。
- ◆感染の終息を見極め、活動の再開を模索するのみ。
- ◆不安にならない。格差をなくすためにできることを行う。
- ◆参加者とスタッフの健康を第一に考える
- ◆感染拡大の第二波が来ないとも限らないので、今後の活動は慎重に進めたい
- ◆いつも練習に使っていた施設がまた利用できるようになったら、できる限りの感染防止策をとりながら、少しずつ通常の練習会ができるようにしていきたいと思い、メンバーの皆さんとも意識の共有をはかっています。また、第二波（第三波）に備え、今後も施設の利用ができないあいだはオンラインを使った練習を続けていけるよう、体制を整えていきます。
- ◆調整中です。
- ◆「新しい利用様式に沿った」形で利用させていただく。
- ◆いつもオンラインでやり取りをしているので、引き続き連絡事項はオンラインで周知しています。
- ◆終息するまで活動はしない。
- ◆宣言が解除になったので、感染に十分気を付けながら、挽回しようとしている。
- ◆コロナより怖いものはこの世にはたくさんあること。（普段の業務の方が危険なものをたくさん扱っているので）
- ◆感染防止を優先し、事業の再開に関しては政府等の指針を参考にしつつ、段階的に対応する。
- ◆感染防止対策の徹底とボランティアさん、職員の安全確保を行いながら活動を行う。
- ◆新型コロナ感染対策の徹底をして活動を行う事
- ◆7月に予定と手続き（規約との整合）
- ◆25周年でもある今年度、記念事業、公開講座等の事業計画作成中です
- ◆今後検討
- ◆最善の注意をはらいながら行動する。動画を使いからなかった方に内容を知らせる
- ◆収束したら再開する。それまでは自己研鑽
- ◆サポートセンターが開館になるまでは、全て在宅対応。
- ◆明るい話題、楽しくなる、ほっとできる場の提供をし続けていく
- ◆この際、解散を考えている。チラシ
- ◆まだ状況を見ている段階。
- ◆コロナの終息を待つ。
- ◆政府や行政の対応に準じて、対処する。
- ◆会議が全く開催できず、意見交換は行っていません。
- ◆感染症対策として、フェイスシールドや消毒液など用意しておくことなど。
- ◆当面情勢の様子見

- ◆これから検討します
- ◆まずは感染防止対策をして従来通りの活動再開ができる時期を待っている
- ◆年間行事の大部分が中止となり、会員のモチベーションをどう高めていくのかの課題
- ◆現在他スタッフと共有できる状態にないため共有していない
- ◆1. メールや Zoom ミーティングにより、役員間でのコミュニケーションを密にする。2. 通常練習再開にむけて、オンラインレッスン、少人数・個人レッスン等工夫する。3. 平均年齢74歳の高齢者団体なので、無理な合唱活動はしない。
- ◆練習再開は講師、会幹部で決めるが、参加は個人に委ねる
- ◆活動の中止中健康に注意する事？
- ◆月1回の各クラス集会などで、本人持参のマスクとフェイスシールドを購入して（まとめて）本人に購入してもらい安全の中で今後継続して行きたい。
- ◆横須賀市、スポーツ関係団体及び市民団体等の対応を情報共有し、会の活動として実施すべきか否かについて検討し進めている。
- ◆行政の方針にそって対応する。
- ◆コロナ終息まで会を一時中止。
- ◆再開したら一致協力して難関を乗り切る。
- ◆一般的な感染症対策を共有
- ◆状況の改善を待つ
- ◆7月に打ち合わせ会議を持つ予定
- ◆ZOOM内で会議が成立するよう、会議の仕方確認する
- ◆緊急事態宣言解除までは。
- ◆各自がオンライン上での情報発信にチャレンジする。
- ◆新たな生活様式を前提に、個別案件を検討していく
- ◆郵送手段を活用しさらに「講習映像」などを加えて内容の充実を図る
- ◆7月より、週1回、自治会集会所で、コミュニティカフェを開催する事を、会員に知らせる。
- ◆3密を避けること。咳エチケットを徹底する。
- ◆3密を避けながらも、楽しみたい。
- ◆不要不急の活動は自粛
- ◆「新しい生活様式」の実践例を周知し、則してやっていく。
- ◆状況により指導者、会員同士で連絡を取り合いながら続けられることと思う。
- ◆三浦半島地区会独自の連絡網、携帯、LINE を利用している
- ◆市から再開の連絡があった時に日程を調整して連絡します
- ◆電話連絡、メール連絡で出来る範囲で確認共有する。
- ◆公共の会議室が借りれるようになったので、3密に注意しながら、できるだけ集まる機会を設けていく。
- ◆販路開拓。
- ◆会場が使えないのでやむなく中止する
- ◆メールによる連絡とサボセンのロッカーに資料を置いた
- ◆方針を共有するための会議が開けない。
- ◆市の要請に従う
- ◆会員全員にはまだ意見等聞いていませんが今回の事を考えていく予定です。
- ◆国、県、市の動向に合わせて行動する
- ◆三密を避けて行動する
- ◆今後共今までと同様の活動をします。
- ◆相互の連絡と情報共有に気を付けること
- ◆原点に戻ることのないように通所者の集まりに三密に気を配り集団発生防止に対応協力の継続。1日も早く日常生活

活を取り戻せる安心

- ◆引き続き利用者、職員自身の体調管理・観察、感染予防の徹底を緩めずに対応していく。
- ◆新型コロナが、落ち着くまでまつ。
- ◆・会のモットー：リスクを「持ち込まない・持ち帰らない」を再認識・活動再開時に備え、健康管理&体力維持に努める
- ◆3密にならないよう、また消毒などできる限り行う。
- ◆ゲストと会員の安全を図りつ定時ツアーを展開、観光都市横須賀のために頑張りたい。
- ◆政府や県市の通達や対応を確認しご家族に伝え協力していただく。
- ◆施設の出入り口のドアノブや手すりをアルコールで拭いています
- ◆政府のコロナ対策による8月から受付時の方法・歩行記録の認定スタンプシール手渡し・フェスシールド使用・マスク着用・手洗い実行参加費の受納など
- ◆・6月中はオンライン授業のまま、7月より通常授業の予定であるが、状況を見ながら判断する。・生徒と講師の安全を第一に考えながら、学習に空白が生まれないように取り組んでいく。
- ◆7月からコロナ対応をしながら稽古を始めていきたい。
- ◆場所が借りられるようになったらみんなで相談します。
- ◆コロナ対策は可能な限り行い、密にならないように定員を設けるなどの工夫をしてみ~なの家的事業・活動を行う。
- ◆三密の徹底と手洗い消毒、ソーシャルディスタンス
- ◆出入り可能になった活動場所の様子を知らせたい
- ◆7月から施設再開で練習すること決定しています。教室使用に於て、人数制限、練習時間など工夫して様子を見ながら活動始めたいと思っています。
- ◆コロナの状況に応じて取り組むしかない
- ◆出来るだけ電話、メールでの打ち合わせとした。外に旅に出ることは状況を見て行事ごとに検討中止した。
- ◆7月より定例企画会議を実施。公募イベントは秋冬に当初の予定通り実施できると想定して準備していく
- ◆次年度には第7回を実施しようと。
- ◆社会の流れを良く観察して、その場で臨機応変に対応していく。
- ◆事態の経過・終息を注意深く watchするとともに、開催者とのコミュニケーションを適時にとり再動の再開が円滑に出来るよう備える。
- ◆出来るところまでは頑張る。あまり先の事を考えても仕方なし。自己判断自己管理を徹底
- ◆コロナ終わるまでは基本はメール他で連絡（電話等）状況によりサークル活動をすこしずつ再開
- ◆支援対象の中小企業の実況を見ている状態であり、現段階では皆無の対応。今後、状況を見ながら対応、検討する。
- ◆さあに、ビデオ撮り DVD 等を活用した通信講習を実施する予定
- ◆卓球協会加盟者 1500 人程、スタッフ役員 27 名の卓球協会であります。各大会事業の可否をしっかりと役員に伝えることが今は一番大事。現在は令和 2 年度は一度も大会は中止の状況。役員には常にメールにて状況伝達をして方針を共有しています。
- ◆ラインのみでは、十分に説明できなかった。オンラインによる学習があるが、知識、経験が少なく、資金がないため、方針は模索中だ。
- ◆派遣先のイベント再開を待つ
- ◆自分自身がコロナに罹っているかどうか解らない現状です。「うつらない、他の人にもうつさない」ことを考えています。
- ◆電話 FAX を有効に使う
- ◆市からの解除（コミセン、サポートセンター、施設などの解除）をみて判断すると全員利用者様には伝達している。
- ◆次回の会合時に検討します。
- ◆電話やメールで、コロナが終息したらがんばりましょう。
- ◆リスク回避を第一に
- ◆今までとは違う三密を重視し、わいわい楽しく出来ないようで少人数でも日常生活の中で役に立てる集まりにし又、

自分の為にも人の役に立てることも大事にやっていきたいと思っています。

- ◆会員は 780 名位なので全員に徹底させることは無理であるが役員 11 名には周知した。(参加者の命が最優先とし前提とすること)
- ◆当面秋まで休講とし、その後は 3 密にならない様、充分配慮し再開する事を決意した。
- ◆閉館となったら、すぐに会合をもつこと。
- ◆開館が決まれば、出来るだけ早く役員会の開催をし、今後の活動復帰のスケジュールを決める事。
- ◆7 月末の定期会再開をめざし、サポートセンターの感染防止に対応して行きたいと思います。
- ◆まだ役員同士の擦り合わせを行っていないが、いずれ現実の状況を理解し行政指導に添った理念（感染対策を考慮しつつ実施を共有し活動開始する）
- ◆ワーク（保育）を段階的に再開していく。その際、体調管理や消毒などに気を付けていく。
- ◆三密を防ぐ。マスク着用で練習等。障害者とくに小さい子にはマスクはつらいよである。
- ◆検温、手洗い、マスク、換気、消毒を気をつけながら運営していく予定です。
- ◆集まる場所がまだみつからないので、個々で考えていることでしょう。7 月になり、サポートセンター又はちがう場所があれば話し合っていくでしょう。それまでは電話やメール連絡などで対応しています。曲の練習は無駄にならないので明日と未来に向かって行きます。
- ◆まだ十分な打ち合わせができない
- ◆来年のイベントに向かっていちから出直す。
- ◆栄養士の団体として会議などは今後に必要なので、サポートセンターが再開の折には少しずつ今年度の活動を進めていきたい。
- ◆会議を実施できるまで、現状維持です。
- ◆運営事務局が同一職場であり、情報共有がとりやすい。

6. 参加者 利用者などの支援対象者がいる場合、 どのようなご案内をしていますか？

- ◆通常どおりの送迎活動をしている旨説明するが、たとえば通院にしても買い物にしても利用者側からの自粛意識が強い。
- ◆なんもしてねえ
- ◆関東甲信越セントラルオフィスの home page 上で随時開催の休止や再開情報を掲示した。
- ◆開催時には文書でお知らせしますと、伝えています。
- ◆お互いメールで情報交換
- ◆ホームページや Facebook などでの告知，個別にメールで連絡
- ◆①「まなびかんニュース」、横須賀エフエム放送、ジェイコム湘南、神奈川新聞社への茶会中止の連絡。②間違っ
て茶会会場へ来られた方の対応のため、会場での数時間待機。
- ◆LINE
- ◆活動停止中のため、まだ案内は実施していません。
- ◆「横須賀市からの方針なので、・・・」との対応。
- ◆新しい利用様式の内容を全員に理解させた。
- ◆facebook や HP などオンライン上で周知をしています。
- ◆終息まで活動はしない。
- ◆感染防止対策は各々で自己責任の上行っていただくこと。
- ◆HP や会報、個別に電話して事業の休止を告知した。
- ◆留守番電話による時間短縮のお詫びと案内、横須賀市、当法人のホームページ上による案内
- ◆新型コロナ感染対策の徹底（活動中のマスク着用、手洗い、うがいの徹底）
- ◆未定
- ◆今後検討
- ◆孤独になりがちな自粛時間を一緒に過ごそうとさまざまなコンテンツを提供してきた
- ◆市の方針に足並みを揃えると伝えている。
- ◆チラシ等
- ◆メール電話等で対応できない件については、すべて延期で対応
- ◆まだ状況を見ている段階なので、回答は困難。
- ◆特にできなかった。
- ◆政府や行政の対応に準じて、対処する。
- ◆休会の連絡は、ハガキで行いました。2800 通近く出しますので、それも大変でした。再開のお知らせもハガキに
なると思いますが、前述のように人数制限等どのように行うかも含めて方針が定まっていませんので、開催にま
ではまだまだです。
- ◆イベント依頼主が対応してくれました。
- ◆年度計画で説明
- ◆来年以降の実施を検討していると案内はしているが、主催者側としては先行き不透明です。。。
- ◆新型コロナウイルス感染症対策でイベント開催中止の案内をだした
- ◆視覚障害者協会に対しては、点字図書館の協力をいただきながら、会員の自宅のできる作業協力をしています。
- ◆オンラインでの活動サイトに誘導する
- ◆1. 参加を予定していた神奈川男声合唱協会演奏会は延期案内し、チケット代返金した。2. 1 1 月に予定してい
た演奏会はまだ案内していない。
- ◆収入激減と思われる講師（プロの音楽家）に対する支援金についての意見徴収
- ◆活動の中止案内を郵便物、電話、ホームページ等でしている。
- ◆講習会、即売会開催は安全確保の上後日開催を予定。

- ◆主に郵送により告知を行っている。
- ◆月報、会報による連絡。書面での役員会（メールでの役員会）実施。
- ◆F A X、手紙連絡。
- ◆コロナ終息まで、健康に留意し待機。
- ◆支援対象者なし
- ◆マスク着用やソーシャルディスタンスの徹底等、感染症対策を案内する。
- ◆今のところ対象者なし
- ◆コロナの終息を待って、活動を再開します。
- ◆必要に応じて行政窓口等への直接の案内、内容によっては延期の案内も
- ◆案内はしていません。
- ◆電話や、お手紙など。
- ◆3密を避けること。咳エチケットを徹底する。
- ◆会報で、中止を知らせている。
- ◆活動自粛の電話・メールでの連絡を、状況に応じてきめ細やかに実施
- ◆理事長のメッセージを郵送し、会員各位の健康と心の在り方をお知らせした。
- ◆従来の句会といろいろ違う点があり、方法等分かりにくい場合は、電話やF A Xにて対応しています。
- ◆現段階では活動がないので、特にしていない
- ◆支援対象者はいません
- ◆電話、メール等で中止の案内をしている。
- ◆注文が入り次第、作業に取り組む。
- ◆出前講習会は担当者から、相手先担当者に直接連絡している
- ◆授業の当面の休講を案内
- ◆未定（今現在、活動中止状況）
- ◆もうしばらく様子を見てから開催する
- ◆連絡に関しては、ホームページ、メール、電話で連絡
- ◆横須賀市の取り組みを理解して電話連絡等で中止延期を回しています。
- ◆活動再開がはっきりしてから連絡する
- ◆対象者なし
- ◆入所者に対しては事あるごとに、外出や面会ができないことをお詫びし、入所者のご家族に対しても文書や電話で面会制限が続いていることをお詫び、お伝えしています。
- ◆LINE やメールでの相談を提案
- ◆・コロナが落ち着くまで、訪問の自粛&再開の準備をしましょう・訪問先施設のレク担当者宛て、「音楽レクレーション・エクササイズ」無料配信等で、手指歌の継続をご案内
- ◆電話をかけて安否を訪ねたり、道で会った時に現状を話す。
- ◆各団体には支援対象者がいらっしゃると思いますが、当協会の運営には直接いらっしゃるらないので各団体にお任せしています。
- ◆三笠保存会のホームページや掲示等で案内。
- ◆マスク着用・手洗い・家を出る前の体温測定参加カードに記入実施記入実施自粛要請により参加者の皆様の脚の筋力が落ちていきますので無理をしないことをお願いします
- ◆・オンライン授業の様子や生徒・保護者の反応をお知らせ。・スコラ教室での感染対策を写真入りでお知らせ。
- ◆現在は対外的活動を控えている状況です。
- ◆コミセン、まなびかん、サポートセンターポスターをお願いする
- ◆コロナの感染が心配される中でスタッフ自身も感染していないとは言い切れないことを理解していただき、感染対策して何う旨説明した。
- ◆機関紙でイベントの延期、中止等を連絡する。また会費徴収（毎月）の際にサークル代表に話す。併せて電話連絡

をする。会費受付の際にウイルス除菌フレッシュやポールを立ててビニールシートで飛沫防止したり、マスク着用
のお願いなど。

- ◆ Facebook にて、対策していることを具体的にお知らせしている。
- ◆ 活動場所の管理者が行政なのでその決定をまつとアナウンスしている。
- ◆ 新しく参加したいという方の問い合わせなども目下保留中です
- ◆ HP を活用するとともに、利用者全員にメールや電話で対応した。
- ◆ 資料の郵送、電話、メールでの連絡にしている。
- ◆ 本年度の予定を郵送にて連絡
- ◆ 問い合わせはあるものの、今年は不可能という判断を聞くと「残念だ」と
- ◆ イベント開催のお知らせの時点でオンラインの可能性をお伝えしている。コメントやメッセージを頂いた方へ個別でお知らせしている。
- ◆ 施設に職員に対しては、TEL 等で感謝の念を伝えるとともにご利用者に対する care をお願いすると同時にボランティア活動が可能になった場合、ご連絡頂く様案内しています。
- ◆ 特に案内はしていないが問い合わせには対応している
- ◆ 通常連絡（メール・電話）のできたので特別の案内はなし
- ◆ 現段階では当会側が対応はしていない。支援側からの中小企業対応についてこれまで通りの対応はしている。
- ◆ 卓球協会のメンバーは「3/21 に感染拡大状況を注視しコロナの安全性が確認されたら改めてご案内します」としてあり今は判断に苦しんで入る時期です。（大会中止を避ける）。練習会の中止をメールでチームを通じて通達している。
- ◆ スマホ、携帯、Eメールの対応のみである。
- ◆ まずは、ご自身の体を守っていただくこと。
- ◆ 1.HP に延期の旨、更新。2. ポスターに大きく延期の旨の張り紙をした。3. 全会員がわかる範囲で、口コミでお知らせした。
- ◆ 電話 FAX、メール等で実施
- ◆ お手紙、電話活動となっている
- ◆ 支援対象者はいません
- ◆ 行事の中止延期、役員の任意延長、情報共有のお願い
- ◆ この7月1日より市の施設が利用できる予定との事。これからどのようにして参加者が三密を守れるように施設の方やスタッフと話し合っ7月より出来ることでお知らせを作成して案内しようと思っています。
- ◆ ネットのブログやFMブルー湘南放送時にご案内を出す
- ◆ 役員数名が会員の連絡網により周知させた。
- ◆ 手紙やメールで、今後の進め方について報告している。
- ◆ 学習資料の定期配信で絆を維持している。また、講座ごとにホームページを有しているため各種案内や会員の作品を掲載しています。
- ◆ 作業実施前に必ず参加者の了解、納得を得るつもりである。
- ◆ ホームページにてお知らせ。事務所に掲示。問い合わせにはそれぞれ対応。利用の場合、検温、体調の聞き取りをする。
- ◆ メールで連絡。会報送付（年2回）
- ◆ 練習日や時間を小分けにして一同に全員が集まらないよう工夫する
- ◆ 検温、手洗い、マスク、換気、消毒を気をつけながら運営していく予定です。
- ◆ コロナの事等、理由を説明、納得してもらい、お手紙でお知らせしています。
- ◆ 中止の案内は3月におこなった
- ◆ 会員140名に対し中止を連絡した
- ◆ 毎年、保育園での食育活動を6月には行っていたが、時期を変更して行えるか打診してみたい。
- ◆ 利用者から対応の連絡が来ています。
- ◆ 代表者等へ電話連絡による案内を実施。

6_2. そのご案内に対して参加者・利用者などの支援対象者からはどのような反応がありましたか？

- ◆みんなどうしてるのかなー
- ◆セントラルオフィスが把握。いま、業務が多忙のため、その確認は落ち着いたら可能になります。
- ◆みなさん、こちらからの連絡を待っています
- ◆近況報告あり
- ◆なし（ということが影響がなかったと理解）
- ◆スタンプなどで返してくれました
- ◆まだわかりません。
- ◆今回ばかりは仕方がない
- ◆スマートフォンやパソコンの利用に抵抗のある方もいらっしゃるので、全員の参加が難しいです。
- ◆止むを得ない。
- ◆残念だ、残念だけでしょうがない、次回を期待してます、などたくさんのご意見を頂きました。
- ◆マスクや食事前のアルコール消毒等は各々で行っていただいた。
- ◆コミュニケーションの機会が減るのが残念。
- ◆一部の利用者から、この電話は休止せず、電話で話せるのでとても助かる、早く通常の受付時間に戻って欲しい、との声を頂いています。
- ◆検討中のため案内をしていない
- ◆会うことはできないけど新たな価値観や知識に触れることができたり、毎朝決まった時間に子どもが参加できてメリハリがついたり、親子のみになりがちな食事時間が会話で楽しくなったりと好評でした
- ◆了解を得ている
- ◆やむを得ない。
- ◆感触はつかめておりませんが、再開の期待は多くの方から寄せられています。
- ◆現状、把握していません。
- ◆仕方ないという反応
- ◆今年の中止は仕方がない。来年の参加を希望される方も多い。
- ◆了承された
- ◆点字図書館の協力により従前どおり出来ております。
- ◆現状反応無し
- ◆コロナ事情でやむなしの了解をして頂いた。
- ◆月額謝礼金から交通費を除いた分支援に賛同を得られた
- ◆一部会員の方より激励の声を頂いています。
- ◆皆様ご理解頂いております。
- ◆特記すべき反応はない。
- ◆特に困った状況にはなっていないので当面運営は大丈夫とおもう。
- ◆了承された。
- ◆基本的に海やプール活動なので活動中は問題ないですが、そこに来るまでのアクセスや手段等集まりごとには充分注意が必要です。個々の対策への反応は問題なしです。
- ◆危機回避は防災のかなめと、勇気づけられました
- ◆活動の性格から緊急時は対応が前提なので、理解・了解は得られていると思われる
- ◆案内を出すと、大変喜んでくださる方が、大変多い事に、感激しました。
- ◆同意していただいた。
- ◆「仕方ないね、早く収束して欲しい」とのこと。

- ◆非常事態だったので、活動自粛がスムーズにできた
- ◆とても喜ばれた。
- ◆止む無し
- ◆メールより FAX、電話での説明にて納得して頂いています。
- ◆特になし、了解仕方ない。
- ◆支援対象者はいない
- ◆今はコロナの影響で、販売ができないのだから我慢するしかない。
- ◆会場が使えないので、仕方がないと受け止めている
- ◆異論無し
- ◆早期の活動再開を願う声は多かった。
- ◆了解してもらいました。早くの収束を願ってました。
- ◆皆様、概ねご理解・ご協力を頂いております。
- ◆反応は、低い
- ◆・活動の一時停止について施設側も同意見・情報へのお礼
- ◆仕方ないけど、早く再開してほしい。寂しい。鬱になりそう。などの言葉がかえってきた。
- ◆7/1以降再開予定の為未定
- ◆協力的でした。
- ◆NPO 神奈川県歩け歩け協会から8月号に(7月半ばに発行)テストワークで様子を見る。(尚対策を講じる)
- ◆・概ね、安心感を持っていただけている。・通塾が不安な方には、7月以降もオンライン授業を選択肢とする。
- ◆特にありませんが、要望があれば対応していきたいと思います。即。
- ◆コミセン、まなびかん、サポートセンター、ポスターをお願い。
- ◆いつも通り来てもらい家事援助をご希望された方がいる一方、なんとか利用が自分たちで我慢したり対応できる方や感染を心配される方は中止した。テレビなどで報道される状況を理解してこちらの希望で決定させていただけた。
- ◆コロナウイルスに感染しないように激励されたり、共感されたりしました。
- ◆今のところ困った状況にはなっていないので、理解を得られていると思われる。
- ◆いない
- ◆5/27に通信発行したばかりで、まだ反応はない
- ◆お互いに何を考えどうしていますかとう連絡紙は講評でした。
- ◆参加者=全員 すでに再開にあたり参加不参加を確認したところ。ほとんどが参加とのこと(練習する時の細かいルール決めは周知させる)
- ◆特に批判的なことはなかった。皆さん利用できることを待ち望んでいた
- ◆行事の資料等は今でも郵送で行っていたが旅の実施がぎりぎりまではっきり答がでず参加者が困っていたようである。
- ◆来年は是非と
- ◆オンラインへの苦手意識がある方が多い為参加される方は減った。
- ◆施設の方からは、感謝・喜びが寄せられています。市内の施設間でのボラ活動に対する横の連絡が余り行われていないことが少し気がかりです。
- ◆介護保険とは異なる分野での福祉村として、こういう時期は活動はしないのでは、、、と思い込んでいるようでしたので、「できる者で対応します」のひと声をきけることで安心してくださっています
- ◆特に連絡・反応なし
- ◆今のところ対象例はありません
- ◆早近ではガイドライン、体育館中止(市)等からの規制及び再開情報により緩やかになってきているのが、協会にメールにて開催状況等案内の返応がある。
- ◆ラインに日常生活の出来事、日本語の文法などの解説を載せたりして、会の維持に努めた。機器の取り扱いの研修が必要と思う。

- ◆「会員同士が、会えないのは淋しいが、コロナが落ち着くまでお互い頑張りましょう」との声があった。
- ◆コロナな感染症対策時であることから、当然のことと受け止めていただけた。もし開催してたらどんなバッシングを受けたかと思いゾーっとする。
- ◆やむを得ず了解の返事あり
- ◆とても喜んでもらっている。電話でも人とお話しすることが無いので声の出し方すら忘れるのでうれしい。気にしていただいて感謝など。
- ◆了承いただきました
- ◆月ごとにのびのびで会う方から楽しみに待っているような話が出ています。やれてないので体力の低下気味？心配しています。
- ◆ブログ見ました。FM ブルー湘南を聴きましたとのことを伺いました。
- ◆納得していただきました。
- ◆会合をもてることを楽しみにしているとのこと。
- ◆メールにての返信反応はわずかあり、また、ホームページには、掲示板とカウンターを設置していることから、反応を知ることが出来ます。
- ◆ホームページをこまめにチェックしていただいている様子。電話での問い合わせもあり、「早く再開して欲しい」との声もある。検温についてはご協力いただけている。
- ◆通常と変わらない
- ◆理解してもらえた
- ◆残念です。
- ◆やむなしとの回答
- ◆これから打診予定なので、今のところ反応はありません。
- ◆やむを得ないものと思ってくれた。

7. 団体にとって_今後どのような影響があると予想されますか？

- ◆送迎活動の実績は「数」なので、外出自粛が長引くと、助成企業へ提出した目標達成が困難になる。
- ◆とくになさそうですが、スマホ利用の需要が増えるかと思っている。
- ◆新しいミーティングの在り方が検討される。ミーティング形式の選択肢を増やす。など。
- ◆親密に話ができない。耳の遠い方もいて、密にならないように心がけるのが大変です。
- ◆チーム力低下 意識低下
- ◆元々、小さな活動なのでそれほど影響はないと考えています。
- ◆対面式の活動が難しくなる。
- ◆年間活動計画・予実算の未達。来年度活動の再考。
- ◆寄付がへる
- ◆コロナが心配で参加者が減少して参加料が減ると、講師代を支払うと赤字になってしまう懸念があります。
- ◆早く終息し、活動が出来るようになりたいが、果たして以前のような形で活動できるか？疑問だ。
- ◆このままだと人数が減ってしまい、活動が難しくなるかもしれません。
- ◆大人数で室内で集まるイベントはできないと感じています。
- ◆今年一杯は全員参加は無理だと考えています。
- ◆三密によってクラスター感染の不安が広がる為、イベントは開催できません。万が一、感染が出てしまった場合、うちだけでなく参加者に迷惑がかかったり、出荷先の各直売所やほか農家さんにも迷惑がかかってしまいます。
- ◆活動再開の時に活動者の減があると思う
- ◆短い期間に負担が増えていると思う。
- ◆飲食を伴うイベントは対策をしっかりと練らなければいけなくなる事。
- ◆収入の減少
- ◆新型コロナウイルスの影響による社会生活の変化に伴い、ますます、経済的、精神的なストレスが大きくなることになり、不安や不満を抱いた人が話せる場として、自殺予防としてニーズが高まるのではないかと考えています。
- ◆ジュニアヨットクラブ生の減少
- ◆年度計画未承認
- ◆事業中止により会員の減少
- ◆ガイド活動への参加者の減少
- ◆活動場所が減る
- ◆新生活様式が一般化すると、3密対策と参加人数に制約がでる。
- ◆やはり集合離散が出来ないと、個々の意識レベルが著しく低下が懸念される。
- ◆街とのかかわりも大事にしてきたので、オンラインだとそこがやりづらいと思います
- ◆利用者が以前のように来所するかどうか。また、少ないスタッフで消毒などの対応をどこまで徹底できるか考えなければならぬ。
- ◆特にないと思う
- ◆体験型のイベントが多いので、参加者が集まるかどうか？
- ◆わからない。
- ◆以前と同じ状況に戻ることは難しい。ウィズコロナを前提に新たなノウハウを積み上げていくしかない。
- ◆私たちは大勢の方と一緒に歌う会であり、また会館という密閉されたところでの開催ですから、まさに3密の典型的な事業になります。会員が高齢者が主となっていますので、安全・安心が完璧にまで保証されないと開催は難しいと考えております。さらに2波、3が襲ってくるとなると、再開の時期は大幅におくれ、1年後に再開で切るかどうか分かりません。果して財政的に持ちこたえることができるかどうか、また会員の人達が元のように戻ってきてくれるのかどうか心配をしています。
- ◆お天気教室などのご依頼数減少が懸念されます。

- ◆組織の衰退
- ◆存続の危機。
- ◆ゴスペルクワイアを運営しているいるので練習会場、方法についての懸念が大きい
- ◆例年通りの活動がこなせるか不安があります。
- ◆活動の停滞
- ◆1. コロナウイルスに対する効果的なワクチンや治療薬が出来るまで、安心した練習や演奏会活動は出来ない。
- ◆メンバーの減少とモチベーションの低下
- ◆活動の中止が長引けば今後の会の運営がむつかしくなる事。
- ◆マスク、フェイスシールドをした上で継続可能と考えて対面で会合を希望している。
- ◆計画されている行事の延期、又は、中止が予想される。
- ◆クラブ活動（ヨガ、太極拳、詩吟、プラレツ、T B G、おもちゃの診療所、ダーツ、吹矢）の実施の仕方の変更を検討する必要がある。
- ◆ミーティングができないので、リモート会議にかえる。パソコンがない人ははずれてしまう。
- ◆感染拡大によってはイベントの中止が再び起こる。
- ◆今年度の活動は下期より少しずつ再開する予定ですが今後第二波、第三波の影響にてかなり縮小せざるを得ない状況です。
- ◆わからない
- ◆調理実習は当面難しいのではないかと考えている。
- ◆感染拡大防止の為、地元ボランティアの活動が期待される
- ◆山に行けない？
- ◆オンラインミーティングも慣れないとかなり疲れるので、ミーティング開催頻度も減る。団体の存続が危ぶまれる感じ。
- ◆再発等を考慮した、運営全般の見直し、準備が迫られる
- ◆全員が集うマジック勉強会の開催が困難になる。介護施設などへの慰問活動が制限される
- ◆コロナが終息するまではイベント活動はできない。
- ◆益々、利用したい人が増えるような気がします。
- ◆分からない。
- ◆親睦が深められないのではないか。
- ◆いつ活動ができるか？予測できない不安。
- ◆このような不安定な時期なので、生活のすじ道・法則は、より一層必要になる学びと思います。
- ◆諸活動が停滞すると思います。
- ◆今の状態が続くことにより、創作意欲が減少してしまうことが考えられます。
- ◆活動への理解を深めてもらうために企画している基地研修やバス研修の開催が出来ない
- ◆再開されるのがいつになるかが心配です
- ◆定例会議、研修会など3密になるので、延期・中止が多くなる事が予想される。
- ◆大きなイベントの販売方法が変わるのではないか、又は、中止。作業が減少方向になる。
- ◆これを機に、出前講習を継続するか、打ち切るかの確認し、新たな出前講習先を探すか、出前講習そのものを止めにするかなど会として方針を役員として話し合うことが、必要と考えている。
- ◆年一回開催の主催行事の開催時期と、感染症対策への対応
- ◆活動の停滞。
- ◆生徒は入れ替わりも多く特になし。検定試験や高校受験等出来なかった生徒が多かった
- ◆研修実施方法の変更。加盟クラブは増えました。
- ◆再開時、パソコン教室などの参加者が戻ってくるか危惧はある。
- ◆練習時間の減少
- ◆活動中止によりメンバーの実力の低下が心配

- ◆印刷が自由に出来にくい
- ◆打合せ会議を実施することが難しい。事業計画の実施が出来ない場合が考えられる。
- ◆緊急事態宣言が解除されても皆さん一人一人が感染防止に協力しないと長期戦が心配
- ◆現状の対応が当面は続くであろうことが予想されます。
- ◆会員数が減る
- ◆・当団体のメイン活動となる「社交ダンス」は、接触の多いスポーツである上、高齢者施設内での活動である為、感染リスクが高く、今年度の活動を断念することも予想される
- ◆3密を避けるには、店舗が狭いため来店数が少なくなると思う。
- ◆毎月行っている会議を人数制限するので内容が伝わるか心配。発表等中止になるものが多かったので活動機会が少なくなる。
- ◆今年は秋以降に所定に活動できても収入は半分以下となる。最悪の場合は1年間無収入、無活動になる。
- ◆未定です
- ◆職員や利用者さんの給料の減額
- ◆洋上の活動ですからあまり影響はありません。
- ◆会員数が減らないか心配
- ◆8月と9月は熱中症のことも考慮して新しい生活の短時間短距離のウォークが増えると思います増える。
- ◆・コロナウイルスが落ち着いた後も、オンライン授業の要望があるのではないかとと思われる。
- ◆稽古や諸活動に影響しないか考えているところです。
- ◆会員参加者の減少。
- ◆参加者の減少
- ◆会員参加者の減少
- ◆今後もしばらく感染が心配されるので、しばらくは利用を控える方がいると思われれます。以前のように会議が行えるか心配。
- ◆横須賀や県内での演劇鑑賞が出来なくなる可能性を心配している。
- ◆イベントが中止になってしまっているのが困ってます。
- ◆コロナ以前と全く同じということにはできないので、人と人の出会いの機会が減るなど、事業面でも年度の計画通りにはならないと予想される。
- ◆イベントの開催が出来ない為、法人の目的や存在意義が問われる
- ◆スタッフ会議の開催
- ◆感染拡大に関わらず今年は老人施設デーサービス慰問活動は無理かなと？
- ◆新しい生活様式が日々の活動に求められるようになる
- ◆コロナにより行事の中止が続き参加者が減ってしまったので、今後の行事が続けられるか心配である。
- ◆毎年恒例のイベントが実施されるかどうか等の問い合わせの対応
- ◆次年度の寄付金が集約できるか？中断の影響がなければ良いが
- ◆必ず参加される方がいる限りは続けていく為影響は特にはない。
- ◆傾聴活動自体が当該拡大防止対策である。「3密」と大きく関連する為ワクチン/治療薬等の目処がつくまでは、活動が難しいと考えられる。長期に活動停止となった場合の活動減少。
- ◆社会危機コロナと共生の方向ですので、終息の予想は出来ないと思う。これから共存していく方向への人為の英知に気合するのみ！
- ◆事業収入の減少、したがって公益的事業のセミナー講演会等の縮小を考えざるを得ない
- ◆メンバー全員が一同に会しての学習活動等が困難。介護施設からの要請による慰問活動の減少。
- ◆令和2年度は全て中止で一度も大会行ってない。中高生の新入部員が3ヵ月遅れてチーム作り支障をきたして行く。(監督コーチ顧問が苦勞する)
- ◆団体の活動人数の減少
- ◆色々な感染症、病気、地震、台風などの災害の時など緊急に備えての用意が、必要と思う。

- ◆今のところ、コロナ状況がどうなるのか先行が見えません。本当にサークル活動が出来るかどうか心配です。手話サークルなので、話手がマスクをはずさないと表情が解らず、聴覚障害者は読みとることが出来ません。参加者が多いと部屋も限られます。2m間隔も難しいと感じます。
- ◆今後の活動は新たな日常の中でしかできないと思っている。又、会場（文化会館）ホール等がどんな条件で開放するかによっても今迄のような活動はできない。
- ◆影響はあまりないが定例会などの中止から各月だったがどこかの月で行うことになる
- ◆役員会議にて今年度の活動計画を確認して進めていく。
- ◆流れに乗るだけです
- ◆高齢化と体力不足が心配
- ◆活動の縮小、限定
- ◆利用している施設が一つ一つ狭いため、同時にスタッフが活動することができないので三密を避けるため話し合いが必要。どこまでできるのか又、どの位の人が参加か？スタッフ参加の影響はあると思っています。色々考え話し合います。
- ◆第2波、第3波のコロナ感染が再来することを懸念しております。
- ◆会員それぞれが抱える課題を会場使用上の制限がある中で、どう割り振っていくか？
- ◆長引くことから、これまでの学習効果が薄れることと、一部の会員の方々の意欲が低下することを懸念しています。
- ◆月に1度、定例会をサポートセンターで開き、作品づくりをして来ましたが、しばらく時間が空き、スタッフのやる気が削がれるのではと、心配しています。
- ◆時の流れ、人口減少等も考えられるがこのコロナ騒動による各種団体のボランティア的貢献。奉仕作業は停滞し減少してゆくでしょう。
- ◆再開しても利用は減少すると思われる。以前のように気軽に保育を受けられず、色々対策を講じなければならない。経費も増加すると思われる。
- ◆会員に感染者が出た場合は事業所をしばらく休まなければいけないことがあるかもしれない。
- ◆海外活動が制限される
- ◆活動休止が長かったため（3月に2日間、4月に5日間はまるまる）2か月と2週間の間に気力がなくなり再活動が難しい人が出ると思う。
- ◆利用者の人数が減る可能性があります。
- ◆サポートセンターは私達の活動する場所です。理事会の印刷、ロッカーはなくては困ります。
- ◆影響なしと想定
- ◆様々な情報共有ができないため、運営の中で困ると思う
- ◆いつまた感染が拡大し、活動場所の閉鎖があるか不安の為、予定が立てられない。
- ◆栄養士なので、調理実習などの方法を見直ししていかなければと思っている。
- ◆当会への利用要請の減少、半年近く活動していませんので、会員の活動参加への意欲が減少していないか心配です。
- ◆イベント開催時における新型コロナウイルス感染症予防対策が必要となる。新生活様式を意識した対応、海岸清掃についてはグループ毎かたまたまらず、大きく展開してもらおう。

7_2. それに対してどのような対策を講じていますか？

または講じようと考えていますか？

- ◆災害時のスマホの使い方などをサポートのひとつとして盛り込もうと考えている
- ◆座る間隔をとる。同じ方向を向く。
- ◆メールなどで情報交換
- ◆活動の形を柔軟に考える必要がある。
- ◆まだ活動が再開できている状況ではないので、再開できた段階で見直し、合意形成を図る。
- ◆支出を減らす
- ◆十分な参加者が見込めるまでセミナーを開催しない。
- ◆イベント参加者の募集人員の調整（少人数での参画）、3密への対応
- ◆まずは引き続きオンラインでの練習会を続けていこうと思っています。
- ◆予約制、人数を絞ったあまり他の方との触れ合いがないものにしようと思います。
- ◆参加者に対して、曜日、時間の指定をして参加してもらう。
- ◆万が一を考えて、数ヶ月ぐらいはイベント自粛を考えています。
- ◆1～2年先なので考えていない。
- ◆大皿から取り合う等は行わない。
- ◆各種給付金等の申請
- ◆ボランティア、職員各々のスキルアップと、話を聴く側である我々のセルフケアも大切にしていきたい。
- ◆Web 承認の方法
- ◆少しの間、週刊メールによる勉強会、情報提供で乗り切りたい
- ◆今後検討
- ◆ネット環境を使い、その場になくても、共有できるようにする。
- ◆今のところなし
- ◆今、現在 line や在宅ボラさんとは会話は出来ている。
- ◆自粛緩和になったので街とかかわりながらコンテンツを作っていけるよう考え中（ひとやお店、活動などのコラボや紹介など）
- ◆まだ状況を見ている段階なので、回答は困難。
- ◆できるだけ、メール等で連絡をする。
- ◆これからの課題。
- ◆現在の主な支出は、会場費予約金と講師の先生方への謝礼金に、若干の打ち合わせ費用ですが、会場費はこの6月までは返金がありますが、7月以降はその見通しが立っていません。おそらく返金はないのではと推測しています。講師謝礼金は全くゼロというわけにいかないなので、再開される時点で先生方と話し合っただけで最終的にどうするか決める予定です。魅力ある例会で再開をしたいし、再開のご案内は心を込め行きます。
- ◆新たなワークショップの形も模索していこうと考えています。
- ◆ネット環境での情報共有
- ◆現時点では分からない
- ◆まだ対策方法が見つかりません
- ◆点字カレンダーは秋から作業ができれば何とか間に合わせたいと思っています。
- ◆会員、一人一人の資質を高めていく事
- ◆1. ウイズコロナで注意深い合唱活動をすすめたい。2. オンラインレッスンやリモート合唱など工夫して取り入れていきたい。2. 高齢者団体ゆえ、オンラインに馴染めない団員もいることを考慮した活動も見つけていきたい。
- ◆声掛け
- ◆現状では無し。

- ◆その時点で感染症の状況を把握し判断せざるを得ない。
- ◆思案中。
- ◆手紙しかありません。
- ◆個々の自粛にゆだねる。
- ◆少しずつビーチクリーン活動位から進めていく予定です。
- ◆調理実習が出来るようになるまで、それに代わる内容を検討しなければならない。
- ◆地元ボランティアが健康的に安全に活動できる仕組みを作る。
- ◆なんとか、自粛をくぐって、行ってます、
- ◆どうしようもない…。
- ◆組織内の連絡網の再構築、意思疎通の迅速化
- ◆開催日時、開催会場などを分散し多人数の会合にならないように配慮
- ◆各自、体調に気を付け、体力作り。
- ◆支援活動者を募って行こうと思います。若い世代の人探しをします。
- ◆呼びかけを縮小してはどうかと、思案中。
- ◆今は、活動再開の時期を待ち、新し企画を練っている。
- ◆さらに広報のチラシ作りが、大切になり、セミナー・集いなど普及活動に邁進する。
- ◆コロナ影響がおさまるまで活動延期、情報交換は密に実施（p c、スマホ）
- ◆指導者からの励ましや投句への誘いを受け、会員の方々にその意を密に伝えるよう心掛けている。
- ◆陸上自衛隊、海上自衛隊や諸団体との連携をとるようにしている
- ◆今のところ予定はありません
- ◆市の方針に沿って活動する。
- ◆姉妹作業所と共に、販売販路を広げる。
- ◆今年2月に主催行事を開催しその後、感染症対策が厳しくなってきたので、今年度の開催(2020/11~2021/2 ごろ)については、今後の様子見とする。
- ◆対策できず、再開してから生徒たちの要望を聞き今後の対策としたい
- ◆これから検討予定
- ◆現状では具体策未定
- ◆自宅練習の必要性
- ◆初心に戻って始めから出直します
- ◆時間期間に余裕をもって対応したい
- ◆情報連絡方法を大きく変更する。新型コロナウイルス感染拡大の予防対策を行い事業を実施したい。
- ◆会議を7月以降にする。
- ◆新型コロナウイルスの集団防止に一人一人が協力し三密、クラスター発生、消毒を収束までの継続
- ◆引き続きご利用者、ご利用者ご家族への説明、ご理解を頂けるようお願いをしていき、感染予防策を徹底していきます。
- ◆会費の減額を認める
- ◆・社交ダンス自体が密接なスポーツであり、手洗い嗽、体温計測、換気などでカバーが困難・団体独自の、感染防止対策を判断するのは難しい・医療面からのアドバイスを得たいと検討中
- ◆すぐには出来ないが、出張カフェを考えている。
- ◆前向きな活動ができるようにこれから話し合いを重ねます。
- ◆時間があるので各自研鑽に努めるよう指示してはいるが人間は目前にミッションがなくなると努力しない。
- ◆対策なし。政府や県市の支援助成を願うばかりです。
- ◆仲間同士の密接接触を避けます。
- ◆仲間うちに知らせ外部に伝えるようにする
- ◆3030運動のストレッチ体操を行ってもらいます。

- ◆以前から外出が困難な生徒や遠方の生徒のためにオンライン授業を準備していたので、新たな対策はほぼ不要である。
- ◆個人的に電話する。
- ◆ポスター。個人的に TEL する。
- ◆対策を検討中
- ◆神奈川演劇鑑賞会として各劇団に対して密に取り合っています。
- ◆いつでもイベントが出来るようになって大丈夫な対応が出来るように練習をしておきたいと思います。
- ◆可能な限り、工夫をしながら、できることをしていきたいと考えます。
- ◆三密を考慮し出来る範囲でのイベントの開催、ブースの設置や義援金の募金活動等
- ◆ZOOM 会議。野外会議。
- ◆致し方ないです
- ◆特に三密について出来る限りの対策をとっている
- ◆今まで通り以前参加者には変わらず資料を送り多くの参加を求めるようにしている
- ◆HP での連絡は行う
- ◆事態の終息を注意深く見守り活動の再開に備える。(外での活動が出来ないので自己を深めたい) 個人宅については TEL/ 手紙の利用。
- ◆対応している利用会員への出来る限りの支援で前向きに明るく接してもらえるよう心がける
- ◆これまでは基本、参加費無料で対応していたが有料化も考えざるを得ない
- ◆勉強会開催の日時、会場の分散化。多人数が集まるイベント等は広い会場を使用し、スペースを確保する。
- ◆市協会としたりまず大会を行う事です。コロナ対策を確実に守って遅れを取り戻すのに時間がかかるがすぐには無理、まずは顧問の情熱、愛情をもって選手を育てる事です。大会の増加検討。
- ◆所属団体の各班長との Tel 又はメールなどで絶えず傘下の会員と近況報告をしている
- ◆通信機器の操作に熟達する必要がある。検討する機会を設けたい。
- ◆秋の総会前に役員会を開催、これからの活動をどうするか「密」対策をどう実行していくのか。具体的（マスク、消毒はもちろん、フェイスシールド、広い部屋または二部屋予約等）に検討。
- ◆利用する会場の利用要項に従って会員の十分な理解のもとで、無理せずに活動を進めたい。
- ◆自粛前と同様な活動をする
- ◆講義などの先生との連絡を密にして行く
- ◆各員には手紙で案内をした。
- ◆声を掛け合って頑張る。
- ◆収束か、再発か見通しが立たない今後の活動内容方法など新たな観点から見直しが必要
- ◆スタッフの話し合いの中でマスク消毒、特にソーシャルディスタンス三密を守るため2か所に分け教室を作りスタッフが2か所に分かれてやり内容も分かれても同じことをやり全員が同じことを受け出来るようにしたく思っています。内容も初めに戻しだんだんと違うことも入れてやりたいと思う。
- ◆ひたすら第1波と同様に自粛しワクチンや治療薬のかいはつを待ち望む
- ◆第1波と同様に自粛し、ワクチンや治療薬の完成を待ち望んでおります。
- ◆会合をもてていないため、方向性はだせていないが喫緊の課題から取り組むことになるだろう。
- ◆ホームページ及びメールを利用しての情報や教材の提供をしています。
- ◆スタッフとのこれからの話し合いで定例会を隔月にすることも考えています。
- ◆当会については当初（10数年別）200余名を擁していたが現在60余名に減少し、加入者、跡継ぎが現れず労働提供困難になり、いずれ市が検討すると云う「衣笠山公園再生に関するソフトプラン作成」に全面協力する予定。
- ◆体調管理は検温と体調の記録を取る。(利用者も同様) 手洗い、マスク着用、換気、部屋の消毒、人数制限など。
- ◆会の運営費(会員に対しての報酬)をどのようにしていくのか？
- ◆活動を縮小する
- ◆一人一人に声かけし、また一緒に活動しようと誘う

- ◆安全に運営していることのお声がけをする予定です。
- ◆今後検討
- ◆新型コロナに関して対策は講じることは困難です。
- ◆どんな問題点があるか洗い出し、それに対する方法や作戦を考えていきたい。
- ◆対象者に対する呼びかけや自主活動の計画、話し合い。

8. 団体が今後必要と考える 今回の件に関するサポート内容について ご記入ください。

- ◆ほかの活動場所での展開
- ◆安全第一、健康第一。ミーティング開催を見合わせる事も大事な決断となる。その際のサポートは今後の継続課題である。
- ◆時短から始めてみて気がついたことを共有し、感染予防していきたい。
- ◆HPでの情報提供
- ◆何でも悪いことばかりに目を向ける必要はない。今できることを考えていけばいい。
- ◆人数制限をしても、サポートセンターの利用を認めてほしい。
- ◆3密を避け、施設が安全に使用できるようにしてほしいです。
- ◆安全・安心が第一ですが、状況が良くなったときにはまた集まって練習できるよう、各施設には感染予防対策をしつかりとりつつ場所を解放していただけるようお願いしたいです。また、メンバーが減ってしまったこともあり、グループ活動の告知を支えていただけるような方法があれば利用させていただいたり、活動をアピールできるようなイベントなどの場があると嬉しいです。
- ◆早い段階で消毒液やマスクの販売などを行っていただけると助かるなーと思いました！
- ◆再び夜までミーティングコーナーや印刷機が使えるようになってほしい。
- ◆質問の意味が分からないが、7を補うことが回答に該当するか
- ◆多くのボランティアが出入りする関係で、感染拡大防止対策として購入する衛生用品の支出が増えている為、経済的な支援を頂きたい。
- ◆打合せ場所の提供
- ◆どの場所もWi-Fi環境があると助かります
- ◆一刻も早く、サポートセンターの開館
- ◆必要な方に情報を届けること
- ◆まだ状況を見ている段階なので、回答は困難。
- ◆できる範囲で早く以前の状態に戻してほしい。
- ◆人心が荒れているので、寛容・優しさ・思いやりや寄り添う気持ちを持った対応がみんなに必要。
- ◆少人数ながら会議の開催場所が確保できそうなので助かります。しかし20人以上になると会議の場所を確保するのが難しくなるので、困っています。財政的なものについては、先日「持続化給付金」の申請をしましたので、どうなるか見通しは立っていませんが、それが受けられれば、生き延びられると認識しています。
- ◆zoomミーティングの活用方法などでしょうか。
- ◆会議室の提供
- ◆施設使用方法の変更についての早く、分かり易い告知
- ◆「活動」と「三密」は切り離せないので、できる範囲で活動するしかないと思います。
- ◆1. 感染を防止しつつ、合唱等市民活動を維持・継続させられる方策とガイドラインを示してほしい。
- ◆会費の見直しか？
- ◆年齢層が高いのでパソコン等での通信が不得意者が多いのでむずかしい点です。
- ◆月報、会報の印刷（1回約500枚）の場所がなく困難をきわめた（サポセンを利用している）
- ◆せめてFAX、を各家庭につけてもらう。
- ◆閉館するのではなく一部使用可能な対策はできないか。印刷、コピー等三密を避ける必要はあるが可能な限り対応してほしい。
- ◆市民スポーツ教育等のイベント告知をさらに市民へアピールする予定
- ◆コロナを意識した活動方法や内容の検討。
- ◆パソコン環境の整備、(Wi-Fi・プリンター)

- ◆早めの解除かな？
- ◆オンライン上のコミュニケーションに慣れる場が必要。Zoom ミーティングも慣れ、Zoom を使った講座開催も慣れ、参加する側も慣れが必要。
- ◆利用・参加者には適切・適時な案内、部内的には迅速な意思統一
- ◆情報を共有するために、会報だけは発行したい。
- ◆会報誌の定期発行の支援をお願いするかも知れません
- ◆会に於いて色々考えて活動できると思います。
- ◆コロナ感染の状況を見ながら行事の開催の有無を早めに決断をする
- ◆自宅待機なので何もできません、高年齢なのでスマホやメールも使えません
- ◆市の施設利用にあたって、具体的な注意事項を早急に示してほしい。
- ◆作業所製品内容を再度見直し。
- ◆メールだけでなく、Web の活用など、会員のスキルアップ
- ◆6 月中でも感染対策をとったうえでサポートセンターを開けてほしい。
- ◆市の施設が早い時期から長期にわたり利用不可となったことが活動を停滞させた。
- ◆感染させない、感染しない、利用者さん職員も感染してはいけない。生活を守り業務にあたる。
- ◆現状は施設での感染者も出ていない状況なのでなんとか施設職員の対応や備蓄の物品（マスク・予防着類・消毒液等）で賄っていますが、万が一感染者が出てしまった際には、介護スタッフの人員や物品など不足することも考えられます。
- ◆WEB に参加できない会員のサポート
- ◆ボランティア活動での、「染防止対策のガイドライン」につきます
- ◆他の団体との連携で、利用者が安心して過ごせる環境になること。
- ◆当協会は年配の方が多く HP を見られる人が多くはないのでその方達も早く情報に接することができつようにしていただきたいです。
- ◆規制ばかりではダメ。東京都のように予防を図りながら段階的に規制緩和をし、観光業界を救済すべきである。
- ◆感染に注意したうイベントに商品を出し収入につなげたい。(利用者さんの給料になるので)委託先を増やしたい。
- ◆特にサポートを要しません
- ◆今回同様、早い対応をお願いします
- ◆歩け運動の団体歩行では濃厚密着になりやすいが間隔の取り方のサポートする
- ◆オンライン授業を実施できない環境の生徒に、行政のサポートがあると良いと思う。
- ◆先日、文化振興課長生涯学習財団の方と（和田さん）と話し合いを持ち、例年やっている諸活動に影響に影響がないようにと要望した。(財政問題も含めて)
- ◆サポートセンター新聞で会の開催予定を告示してほしい
- ◆演劇は劇場での三密が一番の課題です。そのため入場時での検温、マスク、手指消毒など会員に徹底励行を心掛ける
- ◆皆さんどのように活動を再開したり、広げようとされているのか情報を得られたら助かります。
- ◆公益性のある団体ですが法人化をして強化したいです。
- ◆もう少し早めのサポートセンターの開館実施が出来たのではないかと思います。
- ◆各団体の活動予定を一括してのお知らせがあるとよい
- ◆個別のサポート（ラインやメッセージャーを利用）
- ◆地域内の身近な存在であることの安心感をえられるような存在でありたい
- ◆当会は中小企業を対象に支援活動しているので、支援側の経営体制がかたまらないと対応がむずかしい。現状では支援側の今後の経営方針の把握に努める。
- ◆市内体育館の空白を提供してもらい練習不足による協議巾向上をはかり、空き体育館を使って練習会を実施したらどうかと考えます。
- ◆今後いろいろな災害のパターンを想定し長期にわたる外出自粛、休館を想定するには、団体相互の経験について学

ぶことが大切と思う。資料の開示をお願いしたい。

- ◆「1 団体 10 人程度」は、10 ～ 12,3 人でも利用できますか？会員が 14 人なのですが利用できないと困る。
- ◆利用者様が高齢なだけに休止するしかない。対面は休止しても電話やお葉書などでサポートした。
- ◆11/6～9 市民書道展（公財）生涯学習財団のご協力を
- ◆緊急事態宣言中はサポートは不要と思います。
- ◆オンライン環境が整備されればよいが、困難な場合のフォローの仕方
- ◆スタッフがどこまで参加者の皆様に生活援助の一つになれるよう高齢者のための一助になれるよう開催できることが必要と考えています。
- ◆現在も今後も同様ですが会員の方が高齢のため抵抗力が弱い為やはり健康や命を最優先とする。
- ◆現在も今後も同様ですが会員の方が高齢で抵抗力が弱い為、やはり健康や命を最優先として考える事。
- ◆メール学習によるサポートには限界がある。Web 会議が今後の課題でしょう。
- ◆届いたプリントに、混雑時の入館制限について書かれていますが、コロナ収束までサポートセンターは総て予約制としたらどうでしょうか。行ってみてのダメ出しはちょっとキツイです。
- ◆市職員の定期的人事異動が目標達成の生涯になることがある。
- ◆一人一人の予防をし行わなければいけないことはしっかり守っていく。
- ◆ZOOM 契約金等通信料の補助
- ◆まずは今大変困難な状況であるがそれでもめげずに活動を続けていることを伝える
- ◆私達の団体は個々にお弟子をかかえ、個々に演奏活動をしています。そしてボランティアで学校、施設、老人ホーム等に慰問もしています。サポートセンターが行う行事には積極的に参加し伝統音楽である箏、三弦、尺八の演奏を多くの方に聞いていただき広めたいと思っています。
- ◆活動場所の閉鎖はなくし with コロナのもと、関係部局の方々はフェイスシールドやビニール等で窓口を防護して備えてほしいです。
- ◆現在、会議等が開催出来ず会員の考えが集まっていないため、回答ができません。

9. 行政や助成団体などの他組織へのご要望があればご記入ください。

- ◆私たちの団体の存在の周知と利用促進につながるような情報を提供していただきたい。
- ◆まちなかのフリーワイファイを望む
- ◆安全第一。健康第一。会場の利用閉鎖と休止は開催判断を迷った時点で助かりました。今後とも、感染予防策は早め早めをお願いします。
- ◆開催についての指針があれがうかがいたい
- ◆情報提供
- ◆一般市民を対象にした催しに対する広報（広報よこすか伝言板等）の間口を広げてほしい（無料開催の枠撤廃）。
- ◆家賃がある団体さんへ家賃補助を
- ◆「役員の打ち合わせ場所」が欲しい、
- ◆イベント中止による減収があるので、助成金の増額や緩和をしてほしい。
- ◆財政的支援 特に家賃等固定費の給付等
- ◆人件費等、経費削減の努力をずっと行っているが、年々、赤字経営となり、運営がかなり厳しい状況のため、委託金の増額、資金援助をお願いしたい。
- ◆横須賀市内の小中校生のクラブ運営は活動が出来ずに困っています。なんらかの活動支援を頂けると助かります
- ◆ゲスト意識の変化調査の協力
- ◆どの場所も Wi-Fi 環境があると助かります
- ◆必要な方に情報を届けることが一緒に出来たらと思います
- ◆市民芸能発表会に持っと市民団体を参加させるべきと思う。
- ◆利用施設（市民活動サポートセンター、生涯学習センター、ヴェルクよこすか）の早期再開を希望します
- ◆「あれはダメ、これはダメ」ではなく「こうすれば〇〇ができる」「こういう方法もある」のような前向きな提案や援助・支援が欲しい。消毒用エタノールが早く普通に手に入るようにしてほしい。
- ◆問い合わせをしていないのでわからないのですが、「新しい生活様式」下での各施設の利用制限がもう少し目に見えるようにしてほしいし、そのために一緒に考えてもらえるような窓口があると助かります。
- ◆市民活動への助成制度の充実。
- ◆今年キャンセルした施設を来年以降優先的に使わせて欲しい。
- ◆「多組織」は「他組織」？「三密」は避けようがないので、特に要望はありません。
- ◆オンラインでの活動を積極的に行って欲しい。
- ◆1. 指揮者や伴奏者などフリーランサーの音楽家は今回の事態で大変困窮されたと思う。 国の助成と併せて、市としても助成してほしい。2. 私たちの団体は50周年記念として、来年に延期した演奏会を準備します。こうした市民活動をさらに発展させるための助成措置をお願いします。
- ◆支援を受けられる点があれば支援をお願いしたい。
- ◆マスク・フェイスシールドの助成金をお願いしたい。
- ◆上記のサービス体制がほしかった。【今後もほしい】
- ◆市民協議推進補助金以外の支援
- ◆コロナの状況把握と対策を明確に示して行ってほしい。
- ◆テレワークの推奨等であれば、ハード・ソフト・費用面の補助
- ◆情報提供
- ◆市のイベントや会議室の貸し出しなどでマイナスの考えではなく、どうしたら感染を防いで実施または使用できるかを前向きに考えてほしい。単にイベント中止や何月まで使用禁止等単純な判断が多い。
- ◆作業所製品が販売できる場所の提供。
- ◆今回の施設の利用停止については、已むを得ないとらえています。
- ◆市は、単に施設利用を全面禁止にするのではなく、安全対策のなかで利用可能な柔軟な対応を考えてほしかった。

- ◆早く連絡できたこと
- ◆使用する体育館運動場での感染事前チェックを配備してほしい。WEB 会議が出来る会議場を設けてほしい。
- ◆自分が感染した？と疑うようなことが起こるかもしれない。そんなもしやの場面を想像して備えと対策について頼れる備えがあればいい（食品、日用品）。フェースガードの配給
- ◆医療機関と同様とまではいきませんが、介護サービス事業所も国民の生活を支えるために欠かせない事業であり、休業や自粛ができない事業であること、利用者の感染予防に努める反面、スタッフも感染のリスク、緊張感に常に晒されているなか、事業運営していることに対し評価して頂ければと思います。
- ◆・現段階では、「厚労省：新しい生活様式」の実践例、を確認できますが、ボランティア活動のアドバイスには向きません。・神奈川県「感染防止『取組書』」の様なものがあると良いです・具体的に、医療面からの助言が欲しいものです・目に見えないウィルスを取り込まない為に、又、社交ダンスをお見せしたり、一緒に軽い運動をする活動を再開できる万全な対策を、独自で判断できるものではありません
- ◆幅広い繋がり、情報交換できる環境。
- ◆HP や FM ブルー湘南では情報を早く知る事が出来ませんが、それになじみのない人にも早く伝わるようにお願いします。
- ◆横須賀市は規制が厳しすぎる。年内にイベントは中止でありコロナが終息した後経済がダメになる。秋のペースツアーは是非実施してほしい。
- ◆商品が売れる場の開催や応援。収入のない期間の助成金
- ◆休みの間の喫茶店なんかはどうしていたのですか？
- ◆7月から10月まで熱中症なるので、施設の開放をねがいます。
- ◆当団体が継続して活動していくためには、資金面で不安定な状況になることが懸念される。最も大きな支出は賃借料なので公的な場を提供していただけたら有難いです。
- ◆演劇、文化、芸実活動へのさらなる理解と他組織の皆様方も健康に留意して活動に支障なきようお願いしたいです。
- ◆サポートセンター新聞で会の開催予定を告示してほしい
- ◆文化振興課や生涯学習財団の方と会合を開き要望などを伝えました。
- ◆ポイント券について、昨年度中止延期を余儀なくされたわけだが、これをカウントしないで欲しい
- ◆横須賀はつい先の敗戦によるコロナ問題を引き上げ船や経験で他の都市以外の具体的で重大な経験をしているのです。サポートセンターを利用してきてきた研究グループなどが様々な報告や研究発表をしているのですが、横須賀の独特というよりも日本の一つの時代経験させられたコロナというものの恐ろしさ、民衆の恐怖が具体的に記録され対策も必死であったことが見えてくるのです。ここでは横須賀サポートセンターがまとめ上げている過去の記録をしっかりと見たり考えたり、注意することが出来るのがこれからを含めてみんなで承知しておくべきではないでしょうか。いいビデオもありますね。今日の政策に対する私たち一般の姿勢や政策はどちらかと云えば報道を頼りにした、データ頼りの不安や安心で過ごして来ただけのような感じもあります。手洗いとマスクだけはしっかりすることは誰もが注意して徹底が出来たようですが、そのデータのとり方や根拠がどのように整理されたものなのか、例えば自分の町や隣の人が収容されたなどということがあっても事情やその処理・対策への心構えのようなものは一切素通りなのです。平成町で大消毒があったわよ、馬堀で基地関係の人が数人問題になったようよ、そんな風聞ばかりが流れて風聞は無責任なだけだからとその先は全く分からずじまいでした。データで他の都市よりも少ないから安心だと、外出もしたくなるのです。やはり横須賀だから注意をし、承知する大切なところがありますね。自衛隊や米国の軍隊があり、人の集団では最大のものがあるということです。ここではそれぞれの集団がどのような規律のもとにしっかり準備・考えを捉えているのかの発表をこまめにしてもらい・訊ねたりすることが大事などころではないでしょうか。そこは機密の集団だから聞いても無駄だなどと考えるのは最も怖い・残念な事。今回も米国空母で異変があったようだという話もありました。船舶という閉鎖の環境も知っておくべきところでしょう。クルーズ船などは船室が何室も、百メートル単位でつながり、通路ではコロナ状態などには対応のしようがないようです。とにかく人間の知恵が働き、蓄積されている横須賀のサポートセンターであることを主張しましょうよ。
- ◆行政からの委託費などが減額されることになりとても困っている
- ◆ホームページを見ることが出来ない人への対応策。

- ◆「みんなは一人のために、一人はみんなのために」の精神でいきたい
- ◆通常でも事業費算出に苦労しているが、この2～3年、目に見えて行政がNPO関係の予算の削減を大きくしているように思える。当会のように地域の中小企業対象に活性化を支援しているNPOはこの状態では存続があやぶまれる。
- ◆6/2 市長室長発の休止施設、再開情報では利用条件では厳しすぎます。又、(3) 利用禁止施設①②は使用者に一筆入れさせて今少し緩和できないでしょうか。(更衣室、シャワー室、観覧席)
- ◆市公報を通し、文化・スポーツなどを年に数回掲載しアピールして欲しい
- ◆今まで地域活動はふれあい、話し合いを基本としてきたが、3密はその考えを大きく修正せざるを得ない事態となった。誰が保菌者か分からない、会うことが怖いという感情は残るだろう。まして言葉が十分でない外国人はどう過ごしてきたか、調査して欲しい。
- ◆・”不要不急”な活動などによく書かれたり、目にしますが不急なものはあるかもしれませんが、不要なものはないと思います。不急のみでいい。・感染者周囲の人々への不寛容、バッシングのないよう、社会教育をしてほしい。
- ◆市民書道展については市施設で書道教室を開いている。団体の市民展に参加を希望します。
- ◆一番印刷が困りました。予約制、人数制限アクリル板をついたてなど他業種(コンビニ、と償還)の工夫を参考に公共施設の利用を柔軟にしていきたい。感染状況公表が迅速でしたが地域(おおまかに)も知りたい。効率的に用心するため
- ◆開催できる場所があることが有難いです。これからも安心して参加できる場所や環境作り当継続をお願いしたいと思っています。
- ◆県や市の要請や自粛事項の発出が遅い。他県や他市の顔色を伺いながらではなく独自で一早く情報を発出して頂きたい。
- ◆長期にわたる休館は避けてほしい。希望する団体の数を制限してもいいので、少しずつでも会合が持てるように。印刷についても同様に。
- ◆Web会議を行うには、ネット環境、使用アプリの経費など、問題点が多々ある。他国並みに国としてWeb環境を整備すべきとおもいます。
- ◆今後各地域で観光その他の事業で市が決定された場合、その担当者及び関係部界の主要役職の現状のような2～3年の定期交代は不可。事業完成するまで役職を果たすことである。通常業務でも地元はがっかりする。
- ◆消毒液等の消耗品費の助成。消毒液、マスク等の購入ルートの確保。
- ◆助成金等はスピードを持って行ってほしい。
- ◆大変な時期でも障害を持ちながらも芸術活動をしている団体があるという事を外部に知らせてほしい。会員が減少しているので会員を募集していることを伝えたい。
- ◆有料、無料の活動できる場所が閉館してしまうのではどうでしょうか。これから望むことはせめて曜日を決めるなり、時間を決めて有料でも良いので場所を提供してほしいです。
- ◆サポートセンターは本当に利用の価値が高く、なくてはならないところなので、今後も続けてほしいです。サポセンがなくては、連協の活動が立ち行かないです。
- ◆with コロナのもとフェイスシールドやビニール等、民間がやっていることを取り入れてほしい。
- ◆地域のコミセンなどを利用させていただくことが多いのだが、各コミセンでの衛生管理(消毒スプレーを設置など)をお願いできたら、とてもありがたいです。

10. 今回、感染防止対策のための様々な対応（活動自粛）などをする中で、団体にとって悪い影響ばかりではないなと思ったことはありますか？
(いつもできない事務作業がはかどった、WEB会議に挑戦した、など改善できたことなどがあればお書きください)

- ◆従来の活動にない、次亜塩素酸水の戸別配布などを行ったが、福祉部局に要請を行ったことが、団体配付実施の一助となったと考える。
- ◆ボランティア同士の交流がふかまったかなと思う
- ◆普段、会えない仲間たちとの分かち合いが出来たこと。何が大切か、物事の本質を考えるきっかけになった。
- ◆野外で遊ぶことを中心にしてましたが、Zoom等を使った自然観察会、博物館・出版社等の自粛中にできる新たな試みの情報を得ることができて、活動の幅を広げる可能性を感じる事ができました。
- ◆オンラインにすることで、参加者が市外・県外にも広がった。
- ◆ありません。
- ◆皆さんに、チャレンジするんだなっと思いました
- ◆連絡は全て、メール、電話で行った。
- ◆zoomの使い方を学んだ。また、SNSで困っている旨を周知したところ、今まで取引のなかった業者さまたちからお声掛けを頂いたり、人の温かさや優しさを改めて感じました。
- ◆野外活動(田、畑等)がはかどった。
- ◆オンラインで利用者に対応する取り組みを模索した
- ◆Web会議の検討
- ◆活動資料の整理、知識の習得
- ◆Web会議に挑戦した動画作成(自撮り)に挑戦した
- ◆企画を検討する時間ができた
- ◆オンライン開催に踏み切ったことで、新たな人とつながることができた。市街の人にも見てもらうことができた。
- ◆WEB会議をやった。それに伴う定款変更も行えた。
- ◆活動に対しては悪い影響しかなかったが、会員同士がお互いの健康を思いやる様子を多く感じた。
- ◆web会議や電磁的方法による総会の開催を初体験した。こういう方法もありだとは思いうけれども、人との何気ないやり取りの大切さも大事と認識した。
- ◆あまり目立ったことはほとんどありませんでした。
- ◆WEB会議を試したところ、いつもは子育て中や遠方で参加できない会員が参加でき、それは良かったです。
- ◆オンラインワークショップにチャレンジしようと思っています
- ◆一堂に会しての会議でなくても、種々の対応があることが分かった
- ◆もともとオンラインの活動が主であるため特に変化はない。オンラインであればワンオペで出来る事がかなり増えるので、スタッフが削減できる。
- ◆1. ZoomミーティングなどWEB会議に挑戦できたこと。2. 自宅練習やオンラインレッスンにより、普段やれてなかった歌唱練習が出来たこと。
- ◆合唱の団体ですが、出来なくなって意義を感じ、大切にしなければと思う
- ◆事務処理作業の整理。
- ◆家庭内で作品製作に集中できた。医療従事者応援・感謝作品を会員によびかけて製作中です。
- ◆会議の議題は先行して意見徴収する等を行っている。WEB会議等、自宅にいながら話し合える環境は今後検討したいと考えている。
- ◆資料の整理が出来、会の歴史を見直せた。顔を見ての繋がりがほしいと思った。
- ◆ZOOMによるWEB会議の練習をした。情報伝達手段としてホームページの更新頻度を上げた。LINEが役立つ

た。

- ◆ web 会議、ズームを使ってみた。
- ◆ Zoom 会議を開催した。4 月は Zoom の脆弱性の話も持ち上がっており、それに対する恐がり方を見ると PC に強いかが分かるので良い機会になった。
- ◆ 創意・工夫で、短時間、少ない回数の中でも一定の活動が維持できたこと
- ◆ 一部のメンバー間で WEB 会議にトライしたが好評であった
- ◆ ・LINE 会議で編集会議ができ、時間を有効に使えることがわかった。・書類の整理が出来た。
- ◆ ボランティア活動に充てていた空いた時間を、自宅での創作活動に充てられた。
- ◆ 手紙・はがきで勇気づけられることを再確認した。新たにラインやビデオ通話・ウェブ会議に、挑戦できた。
- ◆ 得になし、個人的には P C、スマホの取り扱いレベルが上昇した
- ◆ 俳句という性質上、常に明るく詠むことを指導されていることにより、その傾向に詠まれた作品が多くなっています。
- ◆ 3月4月は行事が多い季節ではあるが、中止になった為、事務作業、引き継ぎ等がゆっくり出来た
- ◆ のたろん参加についてゆっくり考えます
- ◆ 仕事の整理が出来た。電話連絡網の数が増えてお互いの確認が出来た。ゆっくり休めた。
- ◆ 事務作業がはかどった。
- ◆ Zoom を使った月例会を開催した。事務作業がはかどった。
- ◆ メール活用の利便性と重要性が見直せた。反面活用が今一つ、
- ◆ WEB 会議などの新たな方法。組織の繋がり必要性。
- ◆ カセットの活用。音符の勉強声出しに集中
- ◆ メンバーからの意見では久しぶりに資料の整理が出来たことがあります。
- ◆ 改善は出来なかった。各自が色々考えたことを今後集約して、改善できることは改善していきたい。
- ◆ zoom 会議、メール例会の開催
- ◆ メール交換で多くの会員が、健康や体力の維持に walking している事が分かり「仕方ない・頑張ろう」の合言葉が生まれた
- ◆ 事務的なことは WEB 会議で済むが、活動事態が、コミュニケーションをとるためのものなので今後は LINE などを活用していきたいと考えている。
- ◆ 当協会での活動ではないですが他のグループで WEB ミーティングやスマホで新しいことに挑戦したりできることが増えました。
- ◆ 人間は時間があっても目的が無ければ成長しない。特に日本人は気が短い。この悪希望の持てる目標を与えてほしい。
- ◆ 一人一人、一つ一つの事柄を丁寧に見れるようになった。徒歩通所の人にとっては運動になった。
- ◆ 全国的に学校でも塾でも双方向授業の実施は非常に少なく（5%）スコラの良さを出せた。スタッフ同士が WEB 会議を行い、新規のことにチャレンジできた。時間や労力のスリム化を図れた。
- ◆ 直接の活動は出来なかったがその分連絡を密にした。
- ◆ 今まで以上にサークル会員と連携して絆を深められた。
- ◆ 「み〜なの家」という居場所を持っていることで、公共施設がお休みでも貸室のニーズに応えられたのは嬉しかったです。また、子育て世代には必要な場所であることも再認識できました。
- ◆ 家族で過ごす時間が増えた。日頃出来なかった掃除片付けができた。
- ◆ コロナ自粛中の会員に森を身近に感じてもらったり励ましたりしたいので、スタッフ作成アマビエの絵の入った DVD を作って送った。DVD の内容は森の鳥、森の入り口出口までの動画等 4 分野。ZOOM 会議を始めた。
- ◆ 家で練習できるものでしたが、一緒に触れ合うことで楽しさ倍増という認識をメンタル部分で改めて実感できたこと
- ◆ 毎月 1 回定期的に行っている会議もネット配信でもやり切れることも分かった。子どもへの学習指導のオンライン化なども検討する時期かと思えるようになった。

- ◆出掛けられないので資料や事務作業がスムーズにはかどった
- ◆移動時間、利用料がなくなったこと。子どもがいても気にせず参加できた。
- ◆福祉村の運営、活動に追われ、忙しすぎる日々を送っていたんだなーと日々の個人としての反省を含めコロナ禍もわるいことばかりでもないかもしれない。
- ◆4ヵ月間大会出来ておらず書面決議より無事理事会終了した。協会と事務局等がメールでやりとりにチーム代表者も慣れた。今後もHP開いてIT化で対応していきたい。このことが改善できました。
- ◆会員同士の情報交換が密になった。
- ◆ウェブ会議を検討したいが、基礎的な知識、機器環境の整備などを模索している。団体活動のためのツールとして、のたろんで研修を計画して欲しい。
- ◆遅れていた記念誌の編集作業が進み、完成しそうだ。
- ◆パソコン会議をやった
- ◆恵まれ過ぎていた日本人、使用できて当たり前と思い込んでいる近頃 施設使用不可で改めて気が付いたことがあると思います。感謝の心が不足していたと強く思います。反省しています。
- ◆今まで団体の活動が主になっていたため自分生活を見つめることができました。
- ◆活動自粛により自分の時間に余裕ができたことで今まで実施してきた書類の整理や過去を振り返り反省の時間がありました。
- ◆活動自粛により自分の時間に余裕が出来る事で、今まで実施してきた書類の整理や過去を振り返り反省の時間がもてました。
- ◆確かに忙しくて出来なかった資料の作成、講座ごとのホームページの充実は、出来たが、会員の学習技能が低下したことは歪めないことになった。
- ◆私が手なぐさみにスタッフ全員に手編みマスクを送りました。作ってみたいと反響もありました。自由時間のあればこそできたことです。
- ◆本年度の活動はすべて中止しており、これから検討し活動開始予定。官側から各種ボランティア作業に対し、良き感染症対策をたくさん提示して頂きたい。
- ◆今までなかなかできなかった古い書類の整理ができた。
- ◆web 会議（一部）を行えた。
- ◆オンライン会議にした結果、ミーティング回数が増えた。
- ◆休止中に会員がそれぞれ自宅でトレーニングに励んだ。過去に出演、参加したときのDVDをみて学習した。
- ◆web 会議に挑戦してみました
- ◆今まで、連協に加入していない団体がつながりを求めてきたのはよかったです。

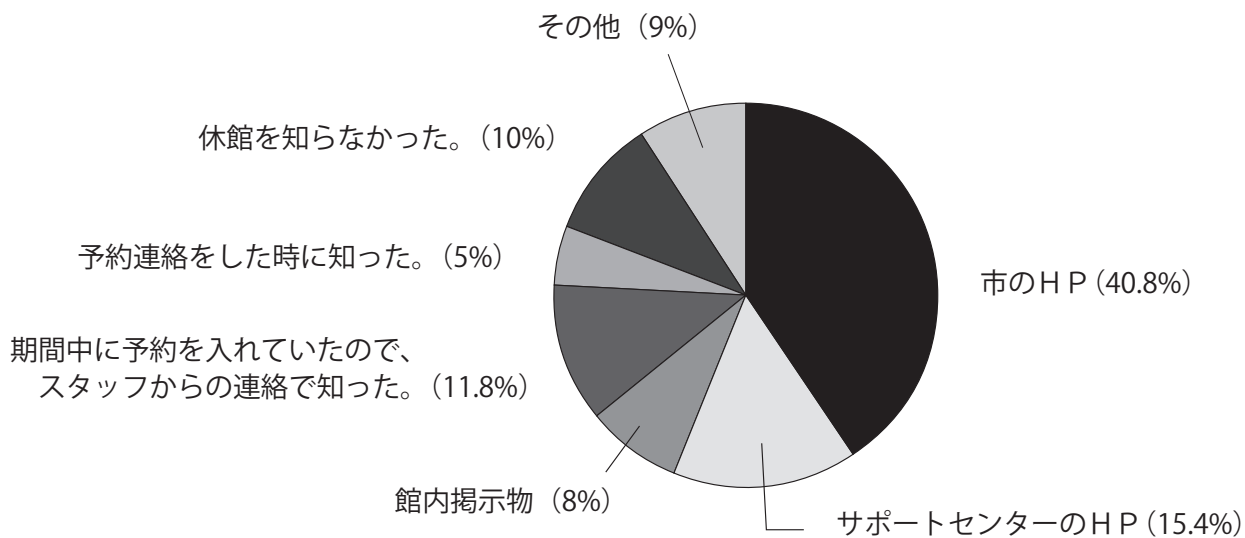
1 1. その他 今回の新型コロナウイルス感染拡大について 団体として気になっていることが等をご記入ください。

- ◆特に高齢者が参加しているので、すべてに気をつけなくてはならないと感じている。
- ◆茶道は対面しての飲食のおもてなし、騒ぐことはないものの狭い空間で密接することもあり、ウイルス感染を防止しながら、新しい生活様式をどのように取り入れていくのか、難題が投げかけられている。
- ◆今までなかったストレスが出てくるのでお互い認め会いたいです
- ◆「絶対に我々の団体からは、感染者を出さない。」という取り組みをして行く事。
- ◆いつになったら完全に収束するのか、いつになったら安全にイベント開催できるのか、を気にしています。
- ◆終息時期がいつになるかとのことが気になる
- ◆コロナ感染の第2波が今年の後半に発生が予想される事
- ◆会員の退会
- ◆高齢会員（60歳以上）が8割以上、会員の健康状態（会員個人からの情報が少ない）
- ◆市としての観光行政の変化
- ◆声を出すことが、歌うことが、やりにくく活動しにくくなるのが気になります
- ◆メンバーが高齢者が多く、やはり慎重にならざる負えない
- ◆新たな生活様式により、大規模イベントなどはどう変化していくのか、保険や補償などどう考えていくのか気になります。
- ◆海の問題を活動の中心にしているので、海離れをしてしまう大人、子供が増えてしまうのが心配。
- ◆安全なワクチンが早く普及して、終息してほしい。ヒトとして不自然な行動を余儀なくされている現状では、思うような活動はなかなか難しい。
- ◆コロナ禍の鎮静状況と私たちの事業が密接に結びついているので、その鎮静がいつどの程度進むのかをいつも気にしています。
- ◆収束時期が見えないこと（は、全世界共通ですね）
- ◆競技運営の仕方
- ◆「会」としては、活動を自粛する中で、「会員」は解除されるや否や、飛びまわっている者がいるのは、どうしようもないとあきらめています。
- ◆活動が三密のかたまりなので、いつから安心して活動できるか
- ◆○感染の収束（完全な） ○会の経済面の運営。
- ◆外出控えたので足腰が弱らないのか心配です。集会会場に向かう事が体力向上にもつながります。
- ◆今後、2年間は通常の活動ができない可能性があると思われる。
- ◆高齢の団体（支援）なので運動不足による”ブレイル化”が懸念される。
- ◆学校の予定がわからないこと。
- ◆来季の動向。第二波第三波 秋冬以降の感染状況
- ◆調理実習はいつ安心してできるのか心配。マスクをして作り食わずに持ち帰れるのか？など
- ◆災害ボランティア定番の人海戦術が使えない。これまでと全く違う新たな活動の仕方を考えていく必要がある。
- ◆仲間同士で、うつしっこしないように！
- ◆様々な医療・福祉関係の窓口が大変な中、要請・相談をするのが憚れること
- ◆施設などへの慰問活動の際のメンバーおよび観客とのふれあいに苦慮
- ◆どこまで自粛すれば良いのか？の判断に悩みました。
- ◆会員には70歳以上の持病をもった高齢者もおり、感染した場合重篤化するリスクが高いため、自粛している方も多い。このため活動が停滞する心配もある。
- ◆集まってみなさん顔を合わせての親睦が出来ない。皆さんがパソコン通ではないので。
- ◆いつ活動ができるか？予測できない不安。

- ◆会の活動停滞、存続の意味？が問われかねない
- ◆手段の一つとしての書類のやりとりについてを個人的ですが気になっています。
- ◆会員の年齢が割りと高いので、感染しないことさせないことが重要と考えている
- ◆会員の方が健康であることを祈っています
- ◆休んでいたので録音時の声が出なくなる。新人の練習・指導などの対応が出来ない。
- ◆景気の悪化により、関係団体からの寄附がなくなった。
- ◆過剰な反応と思っているが、反論しても仕方がないので、危険回避として已むを得ないことと捉えている。
- ◆団体の年齢層は高齢者が多いので、活動の再開後の会議参加にためらいを持つ人がいないか、主催行事への参加が減少しないかの懸念がある。
- ◆生徒の中に感染者がでないか。日本に来る予定だった人帰国する予定だった人が出来ずにいるのではないか。
- ◆介護施設関係者の集まりであり、利用者様への感染防止が最優先である
- ◆活動再開にはそれなりのエネルギーが必要と思う。
- ◆健康第一
- ◆安全第一としています。
- ◆合同の練習が難しいと思われる。
- ◆コロナとの戦いは長期戦になりそうで日常生活、経済の回復を医療提供体制を安心して対応してほしい。
- ◆吃音者の団体なので、WEBで余計、話しにくい方がいる、
- ◆吃音者の団体なので、WEBで余計、話しにくい方がいる、
- ◆今年度「市民協働推進補助金」を受けましたが、活動再開しても、実績が極小となった場合どうなるか気になる所です
- ◆まだまだ、安心できる事態ではないと思う。再開にも不安が残る。
- ◆年配の人が多くて感染した時のリスクがとても心配です。
- ◆感染防止対策を実施しながら規制緩和していかないと経済が成り立たなくなる。市行政は早く施策を出してほしい。
- ◆以前のように活動場（読み聞かせ等々）があるのかどうか？
- ◆これからの不安は尽きませんが、今までの対応を継続しつつも抑圧されたストレスを解放する手段や運動不足の解消に向けた取り組みなどを考えていきたいと思います。
- ◆今回の対処法を忘れないように努めます。
- ◆今回横須賀市では活小津が割には早くから中止ということになったが私たちはもっとできたのではないかと自分たちだけでもやろうよという意見もあったが、横須賀市の英断には拍手を贈りたい
- ◆ウォークの団体歩行が拡散しての参加者同士の久しぶりの顔合わせで密着でクラスターにならないように市民の目が気になります。
- ◆生徒の家庭状況、学校の状況により要望が多様。今後も第2波、第3波への備えが必要であるが、休校中の学習課題は時として生徒に大変負担になっている。受験生含め、サポートすべき内容が大きく、重く、多様になっている。
- ◆今秋にコロナ感染の二波、三波が来るかもしれないとの情報がありますので、「三浦半島演劇祭や諸活動に影響がなければ良いのに、、、と心配しています。
- ◆終息、収束が見通せないためサークル会員への連絡を密にしている。劇団の鑑賞ができないため会員の減少が大きく会の存在が心配です。
- ◆このまま会が解散になってしまうのではないかと
- ◆解除されたとはいえ、まだ終息していないわけだからこれからが問題でしょう。日本人はすごいよね。自粛といっても出てこないし、解除といってもでてこない。町がいつになったら元に戻ってくるのか？
- ◆電車を使い首都からくるスタッフが活動に参加しにくかった。屋外の活動場所なので拡大感染の心配は少ないと思うが活動場所が閉鎖なので仕方がない
- ◆基本的には練習の方法について悩むところです。
- ◆人との関わりを求めるNPOでは第2次感染などがある場合継続した取り組みが出来ず大変。早くワクチンができればと思う。

- ◆ 6月早めの開館（サポートセンター）利用が可能ではなかったのかなと思う。？
- ◆ 会議の会場確保がむずかしい
- ◆ いつも傾聴活動を楽しみに待っていて下さるご利用者の機能（認知等）気になっています。
- ◆ 活度の自粛は当分続くと思うのでこれを機に活動会員も福祉村の活動と自分自身の身の処し方も考えていかなくてはいけないと思う。活動会員も後期高齢者が多数であるので…
- ◆ 当会会員は定年退職後のシニア主体で高齢のため、感染は絶対にいしてはならないので完全自粛状態をお願いしている。
- ◆ メンバーの高齢化がすすんでいるので、コロナウイルス感染による重症化が心配
- ◆ コロナウイルスにより参加者の減少（大会への）顧問、コーチ監督の指導力低下日本卓球協会への登録の減少練習不足による試合参加の減少
- ◆ 緊急事態宣言が解除されたものの完全なる自粛解除が何時になるのか気懸かりです。
- ◆ 外国人がどのような生活環境にあるのか、特別給付金の該当者、申請件数など知らせてほしい。また各国の状態などの資料を図書館に整備して欲しい。6/4 市長と基地司令官の会談でコロナ感染の話が報道されているが、感染者はいるが、公表できないとのことである。公表してこそ信頼感が得られる安心な横須賀にしてみたい。
- ◆ 聴覚障害者と健聴者が手話を使って交流する場です。参加者も高齢者が多いため、安全・安心になるまでは活動の休止が長くなるのではと考えています。
- ◆ 新しいルールで活動しなければならないと思う。それに慣れるまで、どうしようかみんなで話し合いたいとおもっている。今は集まる会場がない。
- ◆ 三密の解消
- ◆ 活動が個人宅活動だから利用者様にうつさないよう活動を休止した。今後の活動によって十分な消毒マスク検温などし相手の了承を得て活動する
- ◆ 各団体の会員減少が心配です（高齢化のため）
- ◆ 小団体ですが消滅することなく継続させたいと強く思っています。
- ◆ 個々の会員の状況の把握がむずかしい
- ◆ 高齢者が来られている団体のため4か月半という長い期間のお休みは体力低下や、外出することを心配する等出席し、やれる方々がどうか気になります。出席しても整えるまでは時間がかかる？と思っています。
- ◆ いつワクチンや治療薬が完成するのが一番ネックになっている。
- ◆ いつ、ワクチンや治療薬が完成するのが一番懸念している事である。
- ◆ 会員の方々は高齢であり体力もいろいろです。その為、開館しても安全の捉え方に大きな差があるため、活動開始時期に苦慮している。
- ◆ スタッフ全員が70代以上のグループなのでみんなの健康がかなり気にかかります。
- ◆ 組織の長としてボランティア作業を組織として実施し（十分な感染防止対策を取りつつも）陽性者等が出た場合、その責任問題は？どう問われるのか？
- ◆ 第2波の心配。
- ◆ しばらくの間は予防を怠らないように基本的には行っていく。
- ◆ 総会他、直接集合の制限
- ◆ 知的障害児・者の団体であるがこの子・この人たちに「スティホーム」は本当につらい。どう対処していいかととても苦しんだ
- ◆ とりあえず話し合う場所がほしいです。有料でも無料でもコロナの件で町内会でも密になるとの事で提供出来ない。
- ◆ 100人位あつまる会議なので開催がいつできるが不明
- ◆ 手洗いの励行など栄養士として、何をすべきかいま一度会員同士でその意義を確認し、深めていきたいと思った。仕事の内容についても改めて現状のままでもよいか確認したい。
- ◆ 会合が出来ずミーティングが行えなかったことです。特に年度初めでしたので、多くの議題が未解決です。

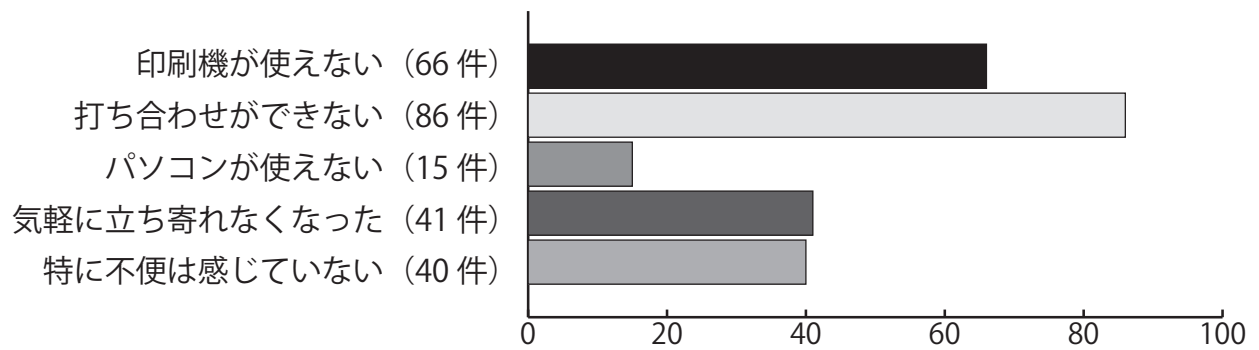
1. 臨時休館はどのように知りましたか？



その他

- ◆ SNS Facebook の投稿で知った
- ◆ 市の広報
- ◆ まだ「閉鎖」までしているとは思わず玄関の前まで来ました。
- ◆ 市の職員が教えてくれた
- ◆ 仲間から聞いた
- ◆ 他の団体から聞いた
- ◆ 人から聞いて、HP で確認した。
- ◆ 直接、電話をいれて知った。
- ◆ ボランティアセンターの職員さんから聞いた
- ◆ 市役所の方から情報を頂きました
- ◆ 町内回覧板
- ◆ 通りかかったらやってなかった。

2. 休館による影響で困ったことは何ですか？



その他

- ◆パソコン講座が開催されない。
- ◆切断機の使用
- ◆会議や交換会ができない。
- ◆販売中止
- ◆活動がお休み中のため、特に困っていません

2_2. 「2」で困ったことがあったと答えた方は_どのように解消されたか教えてください。または解消されていない場合もその旨ご記入ください。

- ◆全ての作業を延期して、センター開館を待っている
- ◆活動衰退
- ◆7月に期待
- ◆延期またはWEB会議に変更した。
- ◆立ち寄りたくても立ち寄れないという点で解消はされていません。
- ◆他の場所を探したが、苦労した
- ◆印刷はサポセンに依頼した。自宅で調べ物をした。
- ◆新型コロナの鎮静化を待つのみ
- ◆サポセン印刷機利用不可と思い、自宅プリンターでの大量印刷でカバーした
- ◆少量の印刷物はコピー機を使用した。個人用パソコンを使用。
- ◆今後の予測が立たない現実が変わりありません
- ◆a コンビニの印刷機を利用,枚数も減らした。b 中止
- ◆事務所もせまいので三密状態のため4～5月は活動休止とした。
- ◆印刷物の緊急を要したので近隣のコンビニストアにて対応した。
- ◆メールによるワンポイントレッスンを行うことで、会員の学習意欲を多少でも維持できたことです。
- ◆ミーティングをオンライン会議で代行した
- ◆ひたすら開館をまつ
- ◆コピー機はコンビニに出向き対応した。ミーティングコーナーが利用できないのでメール、ライン、電話で交換し合った。
- ◆ミーティングはZoomを利用しました。活動についてご相談したいことがあったのですが、活動自粛にもなったので落ち着いたら改めて訪問させていただきたいと思います。
- ◆可能なものは郵送でやり取りをした。
- ◆活動を控えた。連絡は電話で行った。
- ◆活動休止の期間だったのであまり不便を感じませんでした
- ◆・印刷の出来る個人宅に依頼。 ・ミーティングは中止。
- ◆印刷ができなくてとても、つらかった。自宅のプリンターを使用した。インク代が、印刷代より、高いので、印刷機を使用できるのはとてもありがたいと痛感しました。いつもありがとうございます。
- ◆コンビニエンスでのコピー使用し運営費が減少したした
- ◆携帯電話のメールで情報共有
- ◆・センターの印刷物代行のお知らせをいただき、作っていただいた。ありがとうございました。・ミーティング会場がなく今も困っています。
- ◆待機中(印刷機)資料検討突合せも
- ◆私共 My little hands は来年3月末で活動10年を迎えます。今後の活動について再考する時期でミーティングを開いてスタッフの意見を聞こうと思っていたところの閉館でした。7月以降に意見交換を致します。
- ◆会議は延期したままです。ほとんどの活動は休止状態ですが、そろそろ動き始めようと考えております。印刷物は代行印刷いただき助かりました。
- ◆ラインによる会議
- ◆会場不使用で会合開催出来ず困りました。メール、FAX、郵送で費用負担が大きい。医療従事者応援感謝作品の製作をしている。
- ◆ただ、たえた。
- ◆国のきまり等で従わざる得ない状況下です。何もできません。

- ◆自宅で印刷、リモート会議の開催
- ◆横須賀ボランティアセンター（他会場）で印刷した
- ◆全て中止とした。
- ◆ミーティングは汐入ガストで実施した。印刷については大量のものは印刷せず必要なものは各役員自宅の印刷機で資料を作製、対応した。
- ◆会員の案内（総会）は自宅コピー機で印刷し郵送。総会も葉書での意思確認で対応（5/31）プリンターインク代も馬鹿にならない。
- ◆印刷機は使えない。プリンターを購入して対応した。会議室未使用は書面決議で対応できた
- ◆個人宅を利用させてもらいました。
- ◆大量の印刷はできないので不便だった。少量は自宅のプリンターで。
- ◆サポートセンターのように、とても便利な場所が他になく、未だに会合の場がもてていない。
- ◆コミセン印刷機を利用した
- ◆コミセン印刷機を利用した
- ◆ミーティングを予定していましたが、急遽み～なの家に変更しました。
- ◆秋水史料研としての意見→ 今年は戦後 75 年の節目の展示を予定していたが、過去 4 回の来場者の状況から、展示パネルの前が「密」になる事が予想されたので、従来よりも幅広いパネル配置について可能かご相談したいと思う。
- ◆解消されていない（内容によって、ファミレスを利用）。
- ◆役員の人数を限定して、スターバックス等で打ち合わせをした。
- ◆他の場所で同様にいき、サポートセンターで印刷をお願いした。
- ◆法人総会の資料が印刷できないため、事業所のコピーにより印刷を考えている。
- ◆総会資料の印刷ができないため、メール配信と郵送で対応。会報はこれから印刷予定。
- ◆活動の停止
- ◆様々な事案が凍結中です。
- ◆別の施設を有料で利用した
- ◆現在も定例会は行えていない。総会も行えていない。活動に必要な連絡は担当会員とメールまたは携帯にて連絡を取っている。
- ◆仕方がないので、ミーティングは中止している。
- ◆ミーティングをオンラインでやった
- ◆1. Zoom ミーティング及び音楽室で役員会を行った。
- ◆家のパソコン使用しましたが、A 4 までしかプリントできないのが難
- ◆休館中は併行してイベントも休止となったので大きな影響はなかった。（各自電話、メール、FAX で対応）
- ◆市労連のコピー機を借用した。
- ◆年一回の総会を文書総会としたメール配信できない会員には家庭で印刷し郵送した
- ◆電話で用件だけ済ませた。
- ◆あつまれる、場所を探した。
- ◆印刷代行サービスを知り、利用
- ◆有料コピー機を使用して対応
- ◆会報の印刷ができない。このため、メール利用者に対しては P D F により添付ファイルで送信した。メール利用できないものに対しては、送信していない。
- ◆印刷代行サービスを利用し、不便解消が出来た
- ◆他で印刷した。ミーティングは中止した。
- ◆会報を電子版のみとした。
- ◆解消されていない。
- ◆活動を休止した
- ◆コンビニのコピー機で対応した

- ◆必要となった部数を再検討し、保有していたプリンターで対応した。個別電話対応とした。
- ◆会議を7月以降に延期した。
- ◆会報を電子版のみとした。
- ◆印刷を依頼した。
- ◆印刷機で印刷するはずの資料をコピー機で印刷した。
- ◆ミーティングができないのでイオン野外サロンや公園ベンチ等を使用した。
- ◆事務所などで対応した。
- ◆会員同志ラインや電話で近況を報告しあった。書面で検討事項を確認した。
- ◆自宅のパソコンや事務所での業務、会議などをした。
- ◆日頃は近くの役所屋にて印刷していたが、総会資料等大量に印刷することがあったので各自で分担したり、費用はかかったが業者に頼んだりした。
- ◆有料コピー機（コンビニ店）を使用して対応。ミーティングができなかったので、メールを活用した情報交換。
- ◆定期総会資料を印刷できず、秋に延期した。
- ◆施設が使用できるまで待つことにしました。
- ◆交流サロンが使えなかったので他の場所で代替えしました。パソコンが使えない・1部手書きにて代替えしました。
- ◆①ミーティングの場所は代替場所を考えました。②パソコンが使えないことに関しては手書きにした。
- ◆ミーティングの中止
- ◆自宅印刷機使用
- ◆延期にしたり他の場所にて実施
- ◆コピー機で対応。お金と時間がかかりました。
- ◆総会資料をまだ作成できていない。
- ◆休止した（3月から6月の期間中活動中止にした）
- ◆印刷機は私立幼稚園と西行政センターのを借りた
- ◆すべて新型コロナやむなしと考えた。
- ◆ペットボトルキャップが溜まっている。（超個人的）
- ◆印刷物の発行を止めた（減らした）
- ◆ミーティングについては当NPO事務所ですら人数で実施印刷は地域の自治会で借りて印刷した
- ◆休館になり、町のカフェなどの、出入りもためらう様になった。自粛のムードは強い。早い段階から家族へ、のたろんの会場の安全を説明し、理解してもらわなければならない。

3. 臨時休館中も一時的な利用のため、スタッフが待機しています（9時から17時まで）。また、印刷代行サービスも始めました。その他、臨時休館期間中に「こんなことをしてほしい」ということがあればお聞かせください。

- ◆少人数での5分以内会議
- ◆HP等での情報提供。各種申請や総会等の対応方法、オンラインサービスの紹介等
- ◆了解
- ◆オンライン交流会など、いかがですか？（飲み会でなくお茶会？）
- ◆代行サービスは良かった
- ◆印刷依頼が出来たことはとても助かりました、その他は、ありません。
- ◆印刷をお願いできれば、助かります。
- ◆印刷代行サービス、とても有難いと思いました。しかし、会議が出来ないので、ちらし等（どのようなものを作るか決められず）作れませんでした。
- ◆臨時休館中でも、電話対応をして下さるので、大変助かります
- ◆印刷代行サービスは後で知りました。
- ◆ソーシャルディスタンスを考慮し、休館中もミーティングができるよう配慮願いたい。
- ◆電話対応が出来たことで十分です。
- ◆毎月の理事会が開けなくてとても残念です。開館するのを楽しみにしていますが。サポートセンターの大切さが良くなりました。
- ◆感染対策には十分お気を付けてください。
- ◆お世話様です。
- ◆この時期にスタッフの皆さんがゆっくり休養してください
- ◆コロナ対策では政府・県・市の要請では仕方がないですが。県民センターでは8月いっぱい使用が出来ないですが、横須賀市は7月から予約制で使用できますので感謝感謝です。
- ◆サービス休止、一部再開、その他のスケジュールなど分かりにくかった。タウンニュースの情報が有難かった。スマホやホームページが扱えないので
- ◆Wi-Fi環境を整えていただけたら助かります。
- ◆特にありません。いつも感謝しております。
- ◆今のところありません
- ◆医療従事者応援作品（12×12cm）集めています。宣伝等のお願いします。
- ◆コロナ情報がほしかった。
- ◆一部使用可能なものが欲しかった。
- ◆使う機会はなかったが印刷代行サービスは良い取り組みと思った。
- ◆利用しなかったが印刷代行サービスは良い取り組みと思った。
- ◆ご苦労様です。
- ◆利用、相談させていただきました。
- ◆印刷機は入場一人にして利用できるようにしてほしい。
- ◆特にはございませんこの様に便利に利用できる場所は他にはありません。ありがとうございます。
- ◆人数を制限しても、自分で印刷できるようにしてほしい。本来なら職員の方が負うべき仕事ではないと思う。
- ◆印刷代行などで、このアンケートで初めて知った。とても良いアイデアだと思った。
- ◆オンラインでの情報発信を積極的に行って欲しい。
- ◆知りませんでした
- ◆知りませんでした

- ◆パソコンと印刷の利用。
- ◆休館中は全員で我慢するしかない。
- ◆元気にお過ごしください！それが何よりです
- ◆知らなかった（印刷代行サービス）料金を）内容を告知してほしい。
- ◆仕切りのないワンフロアが売りだと思うのですが、そこに仕切りを作って印刷作業ができると助かります。
- ◆印刷以外の機器も、人数を制限して利用できるか、代行いただけると助かる
- ◆ともかく、早く利用できることを願っている。
- ◆待機されていたスタッフの皆さまお疲れ様です。
- ◆スタッフの方々、お疲れ様です。依頼は助かりました。ありがとうございました。
- ◆印刷代行は知りませんでした。ありがたいです。
- ◆パソコンの使用。5人以下のミーティング。
- ◆ご苦労様です。特にありません。
- ◆スタッフが待機している時間内で印刷機を使わせて頂けたら助かります。
- ◆スタッフの御方が待機していただけましたら十分と思います
- ◆密にならない状態でのワーキングスペースの利用をさせてほしい。
- ◆印刷代行サービスも検討したが封筒詰め郵便局への移動又、印刷物の仕上がりについて不便さを感じ頼まないことにした。
- ◆あとにベタベタ書きましたがここを利用させて頂いている仲間のコロナ問題報告はどれをみても震え上がります。そういうものがありますという通信などありがたいですね。
- ◆無理かもしれませんが少人数予約制でミーティングができたならうれしかったのですが、公共施設がすべて閉鎖だから難しいですね。
- ◆町のカフェより、防疫上の安全を重視し、安全に小人数の会合が出来るようにして欲しい。ステップ1, 2, 3, の広報が遅い。早くHPに発表して欲しい。

4. その他_今回の臨時休館に関してご意見があれば ご自由にお書きください。

- ◆いつもありがとうございます！
- ◆いたしかたなし
- ◆対面でのサービスができない中で、印刷代行など、市民活動の支援を続けようと尽力されている姿勢に敬意を表します。横須賀の市民活動の灯を守れるよう、この時期を乗り越えていただきたいです。
- ◆スタッフの方々、お疲れ様です。サポセンの存在価値を改めて感じています。スタッフの皆さんにお会い出来ないのが、寂しい！
- ◆常にご親切な対応に感謝しております。
- ◆毎日担当者が居てくださって、対応ありがとうございました。
- ◆いつも便利に使わせていただいたので休館となるとやはり不便ですね、早く再開できて皆様とお会いしたいです
- ◆三密を避けるという点では、背に腹は代えられません。仕方ないです。 再会を楽しみに。
- ◆適切な制限をつけミーティングコーナーを利用できるようお願いします。
- ◆休館そのものは、国、県、市の方針であり、感染者が出ず、良かったと言えます。尚、開館したときは、当分の間ゆったりしたスペースで会合が出来るようご配慮をお願いします。
- ◆サポートセンターは沼崎館長さんはじめ、みな親切にしてください、教えていただき会員一同よろこんでいます。今回のコロナで臨時休館になり、でもスタッフのみなさんがおられて安心しました。これからもよろしく願いいたします。
- ◆臨時休館中も様々なご検討をいただき、大変ななか市民活動を支えてくださり本当にありがとうございます。このコロナ禍で噴出した多様な課題に対し、ますます市民活動の重要性が見直されてくると思います。これまでもまだまだ大変な時期が続くかと思いますが、スタッフの皆様もどうぞご自愛ください。今後ともどうぞよろしく願い致します。
- ◆スタッフも大変だったと思いますが、まだ油断はできません。再開したときの対応、よろしくをお願いします。
- ◆ありがとうございます。感謝です。
- ◆2～3人の打ち合わせに交流サロンを使用させて頂きたい。
- ◆体験したことのないことだらけで驚くばかり。不安をおおる報道が目立ち、外に出るのが恐ろしくなりました。全て休館は良かったかな。高齢者にとって。
- ◆すべて一律禁止ではなく制限付きで段階的に使用できるステップを考えてほしい。今回だけではなく今後も再発あるいはまったく別の感染もあり得るので短時間であれば休館もしのげますが、長期になった場合はどうできるか市民活動サポートセンターは文字通り市民活動にとって必要不可欠の横須賀市の誇る存在です。
- ◆ロッカーが使用はできますが、スペースが使えないため意味がないように思いました。使用料について検討して頂きたい。
- ◆やむおえないと思う。
- ◆市民活動の自由に出来る唯一の拠点であったので閉館は厳しかった。常時、支障なく便利を図って頂きありがたさが身に染みて分かった。すっかり頼っていたので戸惑いは大きかった。
- ◆スタッフが待機してくれることで、ロッカー利用や、年度始めの手続きなどの対応がしてもらえる安心感があった。
- ◆休館中もスタッフがいることで、何かの時に相談できる点で安心感がもてた。
- ◆使用できたことに「ありがとう」と思いました。
- ◆仕方ないことだが6月はもう少し早めの開館利用ができたのではないかと思うが。
- ◆急な休館で打合せ会議印刷で困りました。けれどプリンター購入で解決しました。インクがこれほどかかるのかと思った(3万円)館長さんをはじめ皆さま大変感じよく親切に対応してくれます。いつも感謝しています。本当にありがとうございます。

- ◆休館になって、改めて、サポートセンターの大切さを痛感した。
- ◆いつまでも大変お世話になり、今後も、どうぞよろしく願います。再開を心待ちしております。
- ◆印刷機利用は少人数でできるようにしてほしい
- ◆このような状況の中、様々な対応をされていることを知りました。いつもありがとうございます。
- ◆緊急事態解除に伴い、各種団体からの使用申し込み(主としてミーティング等)については利用許可をお願いしたい。
- ◆受付の窓口は開いていましたので、例えばポイント券のことなど問い合わせ等に対応していただき心強かったです。ありがとうございました。
- ◆少人数制限で利用を認めてほしい。
- ◆いつもありがとうございます。大変な時期だとは思いますが、頑張ってください。
- ◆今回は、国難で、仕方がないと思っている
- ◆サポートセンターの皆さんもお身体をご自愛ください。
- ◆いつも私たちの活動にご協力いただいています、ありがとうございます！私たちも健康には気を付けていますが、サポセンスタッフのみなさまに置かれましても、気を付けてお仕事されてください。1日も早く、元気に、みなさまの笑顔と会いたいと願っています！！
- ◆スタッフの皆さんも気を付けてお仕事をしてください。気長に待つしかないと思っています。
- ◆小澤さん、コロナ撲滅してください。君ならできる！(杉山より)
- ◆サポートセンターの活動はいつまでも続けて頂きたい。
- ◆上記の通り代行して頂けるサービス etc についての公報。
- ◆感染者を出さないことが一番大事。そのための不便は仕方ありません。感染拡大防止もボランティアの一部です。
- ◆日常的に利用・登録している団体には、メールで状況案内お願いしたい
- ◆サポートセンターの皆さまいろいろな対応、大変だった事と思います。お疲れ様でした。今後も宜しく願い致します。
- ◆コロナの感染拡大であり、休館は当然であり、仕方がないことである。
- ◆会長を交代した件、7月から予約はどのようにしたらよいかを教えてください
- ◆Facebook でのたろんの職員の方が色々発信してくださり情報は得ていました。
- ◆臨時休館の延長が一方向的に決定され、利用者の意見が聞かれていない。7月1日以降も18時閉館では勤労者が利用できない。
- ◆これだけ長い休館が必要だったのか？
- ◆サポセンが心の拠り所のような、市民活動にとってなくてはならない所だと、改めて感じました。これからも宜しく願い致します。
- ◆印刷機だけは予約制でも利用させていただきたかったです。
- ◆サポセンは最後の砦であり、最低でも前3項は実施してほしい
- ◆状況が分からないことだけに、休館については当然のことと理解。スタッフも常駐していることで連絡もとれると安心していた。
- ◆休暇中にロッカーの資料を受取ることが出来て良かったです。その際、受付担当の方が横須賀市のコロナ現状を詳しく説明してくれたので助かりました。ありがとうございました。
- ◆スタッフの御方の健康第一に考えて良いのではないのでしょうか。
- ◆市民活動のサポートとはいえ究極は市民の健康と命を守ることが貴センターの使命としますので一定期間休館したことは正しい対応と存じます。
- ◆市民活動とはいえ、究極は市民の健康と命を守る事、貴センターの使命としますので、臨時休館に関しては正しい対応と存じます。
- ◆スタッフがいてくださったので提出物や配架物の差し替えにに応じていただけて助かった。
- ◆なし。いつもありがとうございます。存在の大きさを痛感します。
- ◆横浜市ではほとんどの施設が利用再開になっているのに、横須賀市は再開が遅すぎる(慎重すぎる)のでは？ 前倒ししていろいろな施設が使えるようにしてほしい。

- ◆センターだけの判断でできないことなのではないかと思う。直接会っての会議以外に以前からPCでのメールでのやりとりをしているので、印刷機使用以外はあまり困らなかった。早めにどこで印刷できるのか教えてもらいたかった。
- ◆職員はフェイスシールドを付けビニールで防護し、たとえば我々二人位で印刷作業できる体制を作ってほしい。民間の知恵を取り入れてはどうか。
- ◆前向きにできることをしようぜ！ by あんな
- ◆サポートセンターがいかほど私たちに力を与えて下さっているものかをいつも感じていますが、今回はさらに痛みを覚えるほどありがたさを感じていました。まだ、開いていないんですね。というのが私たちの今の合言葉でした。
- ◆緊急事態中、解消後も、学校、銀行、スーパーなどは、飛沫防止シート、フェイスシート、設置し、学童の距離間など1から2メートルに規制しているが、センターはマスク、検温だけで利用者間の距離できるだけ距離を置くようにとあるが問題はないのか？